

		<p>九月八日元給仕大善丸犯罪取調に關し鈴木信比古浅井久中野周次郎の三名は米町警察署へ召喚せられ出納に關する諸帳簿の検査を受けたり係官は此の帳簿複雑にして簡明を欠き委員の疑を招く甚となり金の円満を欠くことあらば甚だ遺憾なりとす愛知県神職会は極めて必要の団体なれば益々發展せしめらるゝを要む諸君は十分尽力整理して會員に安心を与へ協同一致本会の基礎を固むべしと諭せられたり</p> <p>九月十日理事会を開き帳簿整理に付き協議をしたり</p> <p>九月十八日元神職取締所参事員会を開き善後策を協議す</p> <p>九月十八日午後一時泉行より大嘗祭御当日各神社に於て執行する祭典に要する祭員補充の件に付御談示ありたり</p>		
	本会録事	<p>会告</p> <p>一主礼申請書ニシテ本礼典部祭式修了証書ヲ添付セシモノハ典禮ノ証明ヲ要セス単ニ遺書ヲナシ郡市神職会ヲ經由本会ヘ送付スルコト</p> <p>一主礼辞令ハ本会ヨリ各郡市神職会ニ送付シ郡市神職会長ヨリ交付シ諸書ヲ敬スルコト</p> <p>一主礼義務金ハ郡市神職会ニ取纏メ本会ヘ送付スルコト</p> <p>一典禮印刷形ハ郡市神職会ニ於テ左ノ形式ニ於テ左ノ形式ニヨリ調製スルコト</p> <p>六分角 郡市典禮之印</p> <p>一郡市内一般神職ニ対シ此際典禮指揮ノ下ニ祭式作業講習ヲ開キ其模様ヲ本会ヘ報告スルコト</p> <p>右各項ノ通り取扱ハレタシ</p> <p>愛知県神職会</p> <p>各郡市神職会御中</p>		
	基地管理規則	<p>一本会ノ所有ニ係ル墓地ハ規定ノ料金を納付スルハ勿論神式ヲ以テ葬儀ヲ執行スル者ニ限リ貸与ス</p> <p>二当墓地へ埋葬セントスル時ハ埋葬届ヲ差出し本会ノ証書ヲ受クヘシ</p> <p>三当墓地へ埋葬スル時ハ本会墓地管理規則ニ拠リ管理人ノ指揮ヲ受クヘシ</p> <p>四埋葬ノ際障害木ヲ生シタル時ハ本会ノ承認ヲ得テ伐採スルコトヲ得</p> <p>五墓地ニ碑ヲ建テ又ハ工作物ヲ設ケタル時ハ管理人ノ立会ヲ受フヘシ</p> <p>六現任神職ニ対シテハ料金を額ノ半額以テ貸与ス但シ或埠以内ニ限ル</p> <p>七区長町村長ノ赤貫者タル証明書ヲ添付セル赤貫者ニハ無料貸与ス但シ四半坪ニ限ル</p> <p>八墓地管理人ニ対シテ手当トシテ借受人ヨリ一戸ニ付毎年金拾錢ツハ給与スルコト</p>		
	養成部録事	<p>基地使用願</p> <p>基地貸与証</p> <p>基地使用料表</p> <p>今回郡市典禮を左の通り命せられたり</p> <p>九月一日より今回移転せし取所に於て授業を開始す養成部移転と同時に生徒寄宿舎南西角祭田新宇玉ノ井に預け寄宿舎を収容す</p> <p>電車賃銀割引を基筋より重畳給道金計へ交渉ありたく九月十日付出席せり</p> <p>八月廿六日午後二時本所講堂に於て祭式検定祝詞試験合格者に対し証書授与式を行ふ合格者氏名左の如し</p>		
267	大正4年10月25日	<p>明治天皇御製</p> <p>昭建皇太后御歌</p> <p>明治天皇御即位宣言</p> <p>同壽詞</p> <p>明治天皇大嘗祭祝詞(本政大臣祝詞)</p> <p>御大禮奉祝の真意書</p> <p>神道の宗教的要素の一節</p> <p>ト占果論の一節</p> <p>他山の石</p> <p>玉あられに</p> <p>故妻拾遺(つゞき)</p> <p>始々</p> <p>梅園遊書抜録 明治二十五年三月稿</p> <p>万葉集は斯く研究せられたり(つゞき)</p> <p>書話鈔</p> <p>百人一首略解(つゞき)</p> <p>神社号所在地抄記(続)</p> <p>風雲草の功徳</p> <p>八事山神聖地由来</p> <p>第三種字附試験問題(つゞき)</p> <p>祝神書及祝詞の内訓</p> <p>御大禮奉祝の終業書</p> <p>大嘗祭奉祭及幣帛供進二付神社局より九月七日を以て左の如く各地方長官に通知せられたり</p> <p>新嘗祭禁止の旨九月十三日内閣告示第四号を以て公示せられたり</p> <p>幣額を購はるべき有位幣額者届出方九月三十日付本県告示第三百十七号を以て公示せられたり</p> <p>神額幣帛料を供進し得る指定神社九月二十二日付告示第三百三十三号を以て公示せられたり</p> <p>十月分 兼願「禁庭菊」</p> <p>十月分 兼願「鏡」</p> <p>九月兼願</p> <p>依紀宮田重務所</p> <p>依紀宮田重務所</p> <p>天長節御祭典</p> <p>賢所奉還予行演習</p> <p>宋元十二月五日京都に於て臨時全国神職大会</p> <p>丹羽郡神職会</p> <p>福豆郡神職会</p> <p>知多郡神職会</p> <p>海部郡神職会</p> <p>本月八日野々山 鈴木 中野 神山等本会に会合し種々打合</p> <p>本月十日新愛知新聞社へ同新聞市内附録に記載せる名古屋市神職会对本会に關する記事中事實相違の点ありたるに付取消を依頼せり</p> <p>来る十二月五日京都に於て臨時全国神職大会開催に付出席希望者取調方を各郡市神職会へ依頼す</p> <p>養成部生徒一同は講師引率の下に近々遠足運動をなす書</p> <p>講師大木氏は知多郡神職会の招聘に應じ不日祭式作業講習の爲二日間出張する書</p> <p>本月十六日熱田神宮政所内養成部教壇に於て祝詞式試験を行ふ</p> <p>神職補充</p> <p>正語</p> <p>大隈伯の養生訓</p> <p>金原明善翁幼時の心得</p> <p>橘千蔵</p> <p>南設楽郡</p> <p>豊橋市</p> <p>濱栗郡</p> <p>即位礼及大嘗祭祝詞正語</p>	<p>河野高秀</p> <p>目黒和三郎</p> <p>池野英介</p> <p>池野英介</p> <p>池野英介</p> <p>大木雪城</p> <p>東春 松園主人</p> <p>奥村孝作</p> <p>やまと新聞</p> <p>池野英介</p> <p>松浦茂方</p>	
268	大正4年11月25日	<p>天皇陛下御製</p> <p>皇后陛下御歌</p> <p>御即位の勅語</p> <p>総理大臣書詞</p> <p>御大禮奉祝の辞</p> <p>御大禮に關する儀式の概要</p> <p>祭田産産及被褥式</p> <p>祭田行幸</p> <p>即位礼</p> <p>大嘗祭</p> <p>大嘗</p> <p>親詣</p> <p>山陵親詣</p> <p>東京遠征</p> <p>御大禮前調度の一端</p> <p>御大禮式場調度</p> <p>神式式</p> <p>詔書</p> <p>勅語</p> <p>詔書</p> <p>御大禮準備</p> <p>大嘗祭</p> <p>大正三年四月十七日</p> <p>大正四年四月二十二日</p> <p>齋田々補歌</p> <p>五月二日</p> <p>五月廿五日</p> <p>明治四年</p> <p>依紀宮田々補式</p> <p>六月二十日</p> <p>五月三十一日</p>		

		七月二十一日			
		六月廿六日			
		大嘗祭並に大嘗宴に於て奏せらるる松紀主基兩地方風俗歌			
		五節舞臺として京都在住公卿の令嬢より左の踊り履定せられたり			
		八月八日			
		御神域の店寮			
		御立殿			
		八月十一日			
		八月十三日			
		八月十五日			
		同日			
		八月十三日勅令第五百五十四号を以て大礼記念章制定発表せられたり			
		大嘗宮に龍上の旗			
		御石帯の曳立			
		御料の御物			
		万葉集は前えんばかりの赤地に雲形を繪出せる録			
		上基嘉田抜種式			
		松紀嘉田抜種式			
		御音書			
		遠酒殿			
		春興殿			
		御奉所			
		大嘗宮上機式			
		御掛花			
		松紀嘉田地			
		御大礼御日取左の如く御治定あらせらる			
		名古屋駅同隣宮間の通運延長は五町九間			
		地方警備の次第			
		御大礼に付き天蓋を賜るべき全国高齢者			
		大礼使にては仏教各宗派総代にあらずして大礼の各儀に召されたものは僧籍に著し兼も僧服を着用することを得ずと発表せられたり			
		賢所奉養典丁は八瀬村より入選せる八瀬童子百二十六名は何れも大礼使雑使として去々任命せられたり			
		松紀主基兩殿に安かるべき繪服は松井愛知事附添十月十二日京都大礼使庁に納入ありたり			
		敬礼喇叭は総て『君が代』を吹奏し離宮賢所は『国の鏡』の曲を吹奏するに決定せり			
		京城御参籠			
		名古屋御参			
		七日 午前八時五十分名古屋宮表御門御出門前日御同様の御順序にて鹵簿盡々停車場御着御			
		七日 午後一時五十分七條停車場御着御			
		御即位れ當日賢所大前の儀			
		紫宸殿の御儀			
		御即位禮後一日賢所御神楽の儀			
		十二日 午後二時京都皇宮内清涼殿に於て神宮皇靈並に各官國幣社へ奉幣勅使奉進の儀			
		十三日 午後四時鎮魂の御儀を行はせ給ふ			
		十四日 賢所大供饗の儀に於ける西陛下御代拜			
		十四日 大嘗宮鎮宮へ降御の節供奉			
		森殿無上の大嘗祭			
		玉基殿御祭儀			
		單臺殿神樂奉幣			
		十四日皇后陛下には五衣に御綵袴御唐衣御裳を召させられ極彩色御袴扇を把らせ給ひて徳川皇后宮大夫御所三位鳥型に女官を従へさせられ午後八時表御座所に御出立し御還御後御座所あらせ給へり			
		賢所大御饗進			
		十四日午前四時外宮大御饗進勅使奉典久我通保男黒袍にて警部四騎に前後を警衛せしめ外宮齋館に参向し定刻 陛下より御供進の御幣物を納めたる御唐櫃を擲り参進御手水修成の事あり			
		十四日午前八時湯地内務部長勅使として熱田神宮へ参向			
		皇太子殿下には十四日高輪東宮御所表御殿に於て大嘗祭御還拜式を行はせられ			
		風俗舞歌			
		大嘗祭庭機代物	松紀殿用		
		稲舂歌と風俗歌	玉基殿用		
		大嘗第一日			
		大嘗獻立			
		屏風御歌			
		大嘗第一日に於て願はりたる勅語			
		同上に於て首相奏答文			
		同上に於て外臣の奏答文			
		全国高齢者へ養老の義に就き御下賜あらせられたる木杯並に酒肴配賜は左の如し			
		大嘗第一日			
		各学校に於ける大礼奉祝奉式次第第八左の如く定められたり			
		御即位禮當日官報号外を以て祝賀の詔書公布せられたり			
		十日官報号外を以て勅令第二百五号憲則に關する件を公布せられたり			
		十日内務省告示を以て官國幣社昇格発表せられたり昇格の神社左の如し			
		養老及贈恤御沙汰			
		贈恤金頒賜			
		贈恤と訓令			
		褒賜免除軍令			
		十一月八日一木内務大臣は内務省訓令第十二号を以て神宮神職に左の通り訓令せり			
		御大典記念郵便切手			
		御即位の勅語大礼をことほきまつりて			
		大嘗祭			
		養成年生徒御大典奉祝歌			
		御大典古今ノ變遷			岡部謙
		御大典講話報告			岡部謙
		御大典記念事業	福豆郡 海部郡 丹羽郡 津美郡 西加茂郡 豊橋市 南設楽郡 北設楽郡 額田郡 八名郡		
		大典奉祝の記念事業			
		御大典當日祝賀次第			
		愛知県神前にて大正四年に於て勅令二十ヶ年に相成候方は至急都市神職会經由本会へ届出相成度此段謹告候也			神職養成部
269	大正4年12月25日	明治天皇敬神の御製			
		歳晚の聲			
		御大禮に就て國民の覚悟			牛塚虎太郎
		神道之精神と題し神道青年会に於て井上博士(哲次郎)の講演せられし筆記の一部			
		神ノ名義等二就キ			西春 松下多計夫車
		万葉集は斯く御記せられたり			大太皇城
		神社修造の勅命			池野長介
		神のめぐみ			池野長介
		天皇陛下に御誓を旨とし給ふ御唐衣により豊家殿の御造當を許し給はず			
		大嘗第二日			
		十一月十九日午前八時三十分天皇陛下には京都皇宮御出門			
		十一月二十日午前九時行在所御出門儀裝の御馬車			
		二十一日午前十時行在所御出門神苑内の謁言			
		二十四日午前八時三十分京都御所御出門鹵簿			
		二十五日午前八時三十分御出門			
		二十六日午前九時三十分京都皇宮御出門			
		二十七日午前五時岩倉奉典以下奉輿殿に出仕賢所移御の御祭儀を行はせ玉ふ			
		二十七日午後二時四十分名古屋御着筆			
		二十八日午前六時三十分名古屋離宮御出門			
		廿九日午後四時より深齋せる宮地奉典以下の奉典出仕賢所奉安温明殿の裝飾を奉仕			
		十日御即位に際し華族政治家教育家新聞社長実業家女流教育家に対し夫々勅諭の御沙汰あり			
		同日聖恩給書に及び贈位の御沙汰あり			
		同日叙位の御沙汰あり			
		二日午前八時三十分御出門			
		四日午前八時東京特別列車にて旧糧派輿へ進ませ玉ひ			
		御饗の御儀は登極令になきも聖上陛下には古儀に則る饗或は河原大祓に倣はせられて大嘗祭行はせ給ふ			

		<p>祭紀主基 ふみ まとの 御神の念深き乃木将軍 甲凡な歌 御書書翰ノ歌タシカコレナリ 宇斯 孝 額に就て 尾張全国総神社所在地(続) 小松をひきて 松詠 和歌 神道探源論 其参 東京府神職会の徴 神宮皇學館学生生徒募集 龍生酒の宴会式</p>	<p>池野英介 池野英介 池野英介 石黒忠直蔵 松岡主人 池野英介 池野英介 池野英介</p>
		<p>本月十二日より十四日まで三日間に亘り大正五年度協議員会を本会事務所に於て開会別項の議案を議せられたり 理事改選 正副委員長 奉成部新学期 大正五年度協議員会決議事項及決議案 愛知県神職会規約 大正五年度経費取支予算書 学際授与者 元神職取締所未支私金仕訳書 愛知県神職会創立準備費 委員会議書</p>	
		<p>令旨 明治神宮奉賛 明治神宮奉建 神社に関する注意(地方改良講習会講演摘載) 天照大神を理想化せよ(摘載) 神社崇敬の意義(摘載) 魂神思想と普遍不滅の信念(摘載) 為有翁歐洲戦争論の一部 応命手紙 一月二十八日貴族院に於て高木兼寛男と塚本神社局長との間に行はれたる質問応答の如くなりしと 讀のはなし 火と火、木と木 七夕 菊 尾張全国総神社所在地(続) 古史拾遺(前身ノ録) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 初等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 愛知県神職養成部卒業生名(高等科第一回、初等科第五回) 龍生酒開筵式祝詞 三月分奉還 神道探源論 其参</p>	<p>松下多計夫 松下多計夫 衣浦漁人投</p>
272	大正5年3月29日	<p>令旨 明治神宮奉賛 明治神宮奉建 神社に関する注意(地方改良講習会講演摘載) 天照大神を理想化せよ(摘載) 神社崇敬の意義(摘載) 魂神思想と普遍不滅の信念(摘載) 為有翁歐洲戦争論の一部 応命手紙 一月二十八日貴族院に於て高木兼寛男と塚本神社局長との間に行はれたる質問応答の如くなりしと 讀のはなし 火と火、木と木 七夕 菊 尾張全国総神社所在地(続) 古史拾遺(前身ノ録) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 初等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 愛知県神職養成部卒業生名(高等科第一回、初等科第五回) 龍生酒開筵式祝詞 三月分奉還 神道探源論 其参</p>	<p>明治神宮奉賛会総裁大勲位功二級 貞愛親王 塚本清治 井上哲次郎 山田新一郎 前田感露 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介</p>
		<p>四月より発行せらるゝと云ふ五錢一錢五厘の新貨幣中五錢白銅貨は表面の中央に八咫鏡を額し其れに円い孔を穿ち模様は非常に優美なりと又一錢銅貨は現在の五厘銅貨位五厘は又其半分の大きさなりと云ふ 明治神宮奉賛会愛知支部は倉三十三万円の寄附募集をなす 高松徳川の御恩召を以て一月三十一日迄の如く御下賜の御沙汰ありたり 神仏問答(大阪朝日新聞) 熱田神宮にては建物保存費より経費を支出し二月一日より神宮警備を為す事となり 塚本神社西郡須野村なる故乃木将軍別荘の一部雑木林中に遠草中なりし 本年度産能決定の常備軍艦は左の十艘なりと</p>	<p>衣浦漁人投</p>
		<p>樹木県内務部長の名にて各都市長へ左の通牒を為せりと 立太子御事は十月三十一日の天長節祝日を以て御奉行相成事に御内定のよし 愛知県山林会は御大礼記念事業として県下の村社以上の神社並に由緒ある寺院境内へ樹苗二三種つゝ記念植栽をなすに決し小学校児童の手にて植ゑしむると云ふ 海部郡津島神社大正五年度歳入出予算総額は金壹万貳千參百六拾七圓七拾八錢六厘なりと云ふ 精豆郡神職会大正五年度歳入歳出は左の如しと 両陛下行幸啓</p>	<p>従来学校所在地ノ氏神社ニ対シテハ其例祭日ニ限り生徒ノ制式参拝ヲ為スノ例ニ有之候如果社以下神社ノ折年祭新嘗祭ヲ新ニ大祭ト定メラレ候ニ付テハ該ニ大祭ニテモ例祭日同様参拝セメ以テ倍々敬神ノ念ヲ敬吹セシムル様致度依命此段及通牒候也</p>
		<p>明治神宮奉賛会員は 左の五種に区別せられたると 三月四日午前十時祇園神社宮司菊池文武氏養成部へ来られ生徒に対し約一時間に亘り有益なる訓話をせられたり 三月七日付を以て皇典講究所長より愛知県皇典講究所試験委員を左の三氏に嘱託せられたり 三月一日付愛知県指令社第四六三号を以て愛知県神職会規約改正の件認可相成たり 三月二十五日本養成部卒業証書授与式挙行 三月二十七日学際試験旅行三月五日より三日間同部会長殿八名都へ出張 縦横暴騰の結果雑誌費増加を要するも予算に余融無之に止し得ず一時頁数を減少するの外致方なき次第に之有之候間不審御察候成度様 神職養成部生徒入学願書受付ハ三十一日限二候へ共二二日後ルハモ受理可相成 神職養成部事務所ハ四月一日ヨリ愛知県庁内二移転スルコト相成タリテメ告ス 奉贈會員自給金未納ノ郡市神職会ハ至急完納相成候様致度</p>	<p>一名賛会員 金五千円以上の献金者 一有功会員 金千円以上全上 一特別会員 金五百円以上全上 一普通会員 金拾円以上全上 一賛助会員 金拾円未満全上</p>
		<p>御製・御歌 神職会組織改善問題の解決 御大礼と仏教徒(摘載) 神社に関する注意(摘載)(つゞき) あかひきのいと 最尊教ハ皇系宗教(雅密カイゼル著)ノ疑ガ作贋ノリ疑革 金原明彦翁経神養訓の一部 府県郷村社の社司及村社無格社の社掌は神社を代表し神社を管理するもの即執行機関氏子総代及崇敬者総代は神社の維持経営其他の事項を決議するもの即決議機関なれば各其権限あるは言を待たぬ然るに往々誤解して其権限を相侵害するものあるを見る 文部省宗教局にて目下調査中なる宗教法案の骨子となるべきは左の如しと 明治神宮新始祭式次第左の如くなりしと 神前神社自給及考証 額に就て(拾遺) 古史拾遺(続) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 県社赤日子神社昇格奉告祭祝詞 熱田神宮々司は今回熱田神宮へ両陛下御参拝あらせられたる時の感詠を皇后宮大夫まで奉進せられたりと云ふを左に載す 三月分奉還</p>	<p>秀賀矢一 塚本清治 池野英介 東春 本倉大倉 三河 久永重武 池野英介</p>
		<p>愛知県告示第百十一号 告示第百十二号 告示第百十三号 告示第百十四号 内務省告示第十号 四月三日神武天皇二千五百年式年祭に当りたれば 天皇皇后両陛下は各皇族殿下を始め文部大臣を随へさせられ大和歌傍の御帳に御親祭あらせ給へり 今回 天皇陛下熱田神宮御参拝あらせられたる御模様 今回 皇后陛下熱田神宮御参拝あらせられたる御模様 四月七日松井知事代理守屋理事官は今回昇格になりたる宝飯郡蒲郡町泉社赤日子神社へ参向奉告祭を行はれたり</p>	<p>郷社 赤日子神社 宝飯郡蒲郡町鎮座 右泉社二列セラル 村社 八幡宮 額田郡福岡町鎮座 右郷社二列セラル 石山神社 宝飯郡蒲郡町鎮座 右泉社二列セラル 明治四十年許告示第百三十六十五号神職常帛料ヲ供進スルコトヲ得ル指定神社中左ノ項ヲ改正ス 一 国幣神社熊野神社 島根県出雲国八束郡野村鎮座 右国幣太社二列セラルハ旨被仰出</p>
273	大正5年4月29日	<p>御製・御歌 神職会組織改善問題の解決 御大礼と仏教徒(摘載) 神社に関する注意(摘載)(つゞき) あかひきのいと 最尊教ハ皇系宗教(雅密カイゼル著)ノ疑ガ作贋ノリ疑革 金原明彦翁経神養訓の一部 府県郷村社の社司及村社無格社の社掌は神社を代表し神社を管理するもの即執行機関氏子総代及崇敬者総代は神社の維持経営其他の事項を決議するもの即決議機関なれば各其権限あるは言を待たぬ然るに往々誤解して其権限を相侵害するものあるを見る 文部省宗教局にて目下調査中なる宗教法案の骨子となるべきは左の如しと 明治神宮新始祭式次第左の如くなりしと 神前神社自給及考証 額に就て(拾遺) 古史拾遺(続) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 県社赤日子神社昇格奉告祭祝詞 熱田神宮々司は今回熱田神宮へ両陛下御参拝あらせられたる時の感詠を皇后宮大夫まで奉進せられたりと云ふを左に載す 三月分奉還</p>	<p>秀賀矢一 塚本清治 池野英介 東春 本倉大倉 三河 久永重武 池野英介</p>

		<p>本会録事</p> <p>今回名古屋に於て静岡長野岐阜三重愛知五県連合神職会に愛知県神職会総会を開催せらるるにつき愛知県神職会会長は臨時協議員会を召集し本月四日午前十時三十分より愛知県農会館樓上に於て会議を開き別項の件を協議決定せられたり</p>	<p>決議事項</p> <p>一、愛知県神職会連合神職会へ加入する事</p> <p>一、愛知県神職会総会を名古屋市内に開く事</p> <p>一、七月二十六日午前十時愛知県神職会総会を県立第一高等女学校講堂に於て開会すること</p> <p>一、同日午後一時三十分五県連合神職会協議会を同講堂に於て開会すること</p> <p>一、同日午後六時南陽館に於て有志懇親会を催す事</p> <p>一、二十七日午前八時より県立第一高等女学校講堂に於て神社に関する講演会を開催すること</p> <p>一、同日午後三時差許差許され度請願する事</p> <p>一、連合県内に在る神部諸の職員をも会員として出席を促す事</p> <p>一、各都市神職会より五県連合神職会及愛知県神職会へ提出する議題は七月十五日迄に提出する事</p> <p>但し取捨は理事に一任する事</p> <p>一、各都市神職会より出席者氏名を七月十五日迄に報告する事</p> <p>一、五県連合神職会協議会に於て可否の數に加はる委員三名撰定せる事</p> <p>一、出席者は会費金壹円当日持参する事</p> <p>一、愛知県神職会より本年度予算講演費の内を以て金五拾円補助し若し不足を生じた時は尚五拾円迄追加補助する事</p> <p>一、熱田神宮拾五円津島神社拾五円清田神社八円砥鹿神社五円泉社一社に付式門つきの寄附を各神社に乞ふ事</p> <p>一、事務分担員は予め定められたる通の事</p>		
		<p>叙任及辞令 廣告</p>			
277	大正5年9月27日	<p>祝辞</p> <p>大会の効果</p> <p>国民性の発揚に就て</p> <p>神職会に望む 国民性と神社</p> <p>七月廿六日、廿七日両日に亘りて愛知県神職会総会并に中央五県連合神職会協議会の名古屋に於て開かれたる事は前号に報道せし所なるが今其の盛況のあらましを記して一覽に供す</p> <p>来会者に渡されたる記念品寄贈品 会場其他の簡付概要 総会及協議会の模様 愛知県神職会総会並に三重、岐阜、静岡、長野、愛知五県神職協議会日程</p> <p>本社記事</p> <p>神社二開スル講演会(県立第一高等女学校)</p> <p>協議案第一号(提出者知多郡愛知郡神職会)</p> <p>協議案第二号(提出者知多郡碧海郡神職会)</p> <p>協議案第三号(提出者協議員会)</p> <p>協議案第四号(提出者協議員会)</p> <p>七月廿七日神社に関する講演会其他の模様</p> <p>重なる来書 本会を協賛し左の通り有志寄贈ありたり録して厚意を謝す 五県連合神職大会并に懇親会出席者員数表</p> <p>廣告</p>	<p>皇典講究所長祝辞 西村総裁訓示 松井愛知県知事講演</p> <p>塚本神社局長訓示 演題及講師 国民性/発祥=松井茂 国民性ト神社 三浦通行 府県以下神社へ金品を寄附せし者に対し相当表彰方県庁に建議の件 神職会の事業として毎年神職に長期講習会を開催するの件并に之に対する県費補助増額申請の件 神職の補職に際しては予め其の人物の適否を当該都市神職会に諮問せられたる旨県庁に建議の件 神職の補職に際しては二都市以上に譲り業務せしめざる様取計はたき旨希望を県庁に具申するの件</p>	田澤義輔 三浦通行	
278	大正5年10月29日	<p>明治天皇御製・昭憲皇太后御歌</p> <p>会説</p> <p>大人物養成は急務也</p> <p>神職及神職会に望む 国民性と神社</p> <p>論説及講演</p> <p>明治天皇奉還唱歌 悠紀斎田跡碑文 八月分業額 俳句</p> <p>文苑</p> <p>伊勢神宮外宮御修理の爲め一時西方の古殿地に黒木宮殿を造営し仮殿遷御の事あるにつき七月十五日朝及深更を以て黒木宮殿造営の第一次祭なる山口祭及び本宗祭を行はせられたり</p> <p>御進奉御宮の御用材は六月十五日より鴨川橋に於て係員の手にて御焼却掃成り候儀に於ては本宮に埋没せらるる事</p> <p>大宮宮後鎮祭は七月三日大宮宮御歌にて神々しく行はせられたり</p> <p>明年度の神社局予算中神社費は拾万円を増加計上すと官幣幣用費は明治二十年年度より三ヶ年間貳拾万円以上には増加すべからずとの制限を加へられしが明年度は制限満期となりたれば貳拾万円にては到底官幣幣社の体面を全うすること能はずとの理由也</p> <p>朝鮮神社造営は本年度より着手し継続事業として朝鮮総督府始政十年迄に竣工を告げたまふ見込ありと</p> <p>朝鮮総督府は府令を以て神社の祭式假例式及斎戒に関する件及神職任用奉務服装等の規則を発布し同告示を以て神社奉仕の行事及作法に関する件を公示せり</p> <p>万朝報記者「孰れが勝つか」と題し仏教連合会は「神社と宗教との混淆原因をなして居る内務省の指示の但書を削り神職と神道教師とを兼ねしめざる様改正して欲しい」との決議を齎して高田文相に迫つた処が政府部内では詳確は必ずしも宗教教師のみが執行するものではない既に國民に自葬をさへ許してある以上神職が葬儀を執行したとて差支ない道理事公然之を許可すべしとの意向らしいといふ</p> <p>仏教徒は勿論神道教師でも機力反逆の聲を高めてゐるやと</p> <p>處置改定せられ八月十五日発表相成たり</p> <p>熱田神宮は宮費増自方を其筋へ申申中なりしが今回愈々左の三名を同神宮々室に任命せられたり</p> <p>御大札所御建物は過般宮内省より本県へ御下賜に相成既に本県庁内に解体の準備存せられと申す因に表忠会へ交付し招魂社建設の議あり又載恩会より御下賜と願出ありと何れにしても貴重の御建物の御下賜を得て社殿建設の運びに至らば光榮と云ふべし</p> <p>明治神宮奉賛会々員章程規定</p> <p>宗教団体より</p> <p>皇室の御財産諸株公債にて凡そ一億八千万円山林三百三十三町歩原野十五万町歩各地の離宮御用邸等の宮殿敷地等を合算すれば実に莫大なるものにて年々役二割位増加すと承る</p> <p>立太子札は愈々来る十一月三日御挙行の事に御決定</p> <p>立太子札御奉行あらせらるるに当時官幣幣社以下神社に於て中祭式を以て奉告祭執行すべ(内務省神社局より各地方庁へ通達あり)</p> <p>立太子札当日授簡殿御下賜金御贈儀等の祝儀あらせらるるやに洩れ承る</p> <p>立太子札奉祝歌詠進一般臣民にも差し許さるゝ事と相成り東宮侍従長兼御歌所長子爵入江守卿は兼題「晴天鶴」を出し歌を取取ね詠進の事に決定せりと</p> <p>御式当日皇太子殿下の御召になる御殿は高田茂氏の調進を命ぜられたり其の御儀様は貴丹色駕籠なりと</p> <p>陸軍歩兵中尉海軍中尉大勲位皇太子裕仁親王殿下には立儲札前即ち来る三十一日天節祝日を以て陸軍歩兵中尉海軍中尉に御慶進遊ばさるゝ由洩れ承る</p> <p>皇太子殿下には立太子札御奉行御勢神宮へ御参拜あらせらるゝ御都合なりしも恰も外宮仮殿に遷座あらせらるゝに付今秋は御見合せと相成り明年三月伊勢に行啓神宮御参詣あらせらるべしと申す</p> <p>東宮茂郎神職講習会</p> <p>皇道講話</p> <p>東春日井郡味岡村大字本庄村八所社に於ては九月第一日曜日を以て氏子児童會を開催す此日來集の児童男女八十余名参列者來賓十余名先づ練儀に始まり神職の奉告祭執行各員の玉串奉賛勸語奉誦をなして玉串を奉る作業を教授し次に神職の平易にして有益なる講話あり</p> <p>知多郡神職講習会開催 海部郡神職会総会</p> <p>廣告</p> <p>廣告等</p>	<p>塚本神社局長訓示 演題及講師 国民性/発祥=松井茂 国民性ト神社 三浦通行 府県以下神社へ金品を寄附せし者に対し相当表彰方県庁に建議の件 神職会の事業として毎年神職に長期講習会を開催するの件并に之に対する県費補助増額申請の件 神職の補職に際しては予め其の人物の適否を当該都市神職会に諮問せられたる旨県庁に建議の件 神職の補職に際しては二都市以上に譲り業務せしめざる様取計はたき旨希望を県庁に具申するの件</p> <p>明治神宮へ献木せし者の内天理教四百五十本真言宗三百余本を最多とし基督教は一本もなし</p> <p>宮内省告示第十三号 立太子札諸儀式 立儲令附式</p> <p>八月廿三日より余郡役所にて開会せり</p> <p>八月廿七日東宮茂郎神職会第四部会主催にて全郡下山村大字東大沼小学校に於て神祇に関する講話開催せられたり</p> <p>氏子児童会々則</p>	田澤義輔 三浦文字博士講演	
279	大正5年11月26日	<p>論説及講演</p> <p>我国家を論じて(戦神)に及ぶ(掲載)</p> <p>古神道と現行法(掲載)</p> <p>神道の儀禮に就て 神職修養論(掲載) 武士道論の一節 國民の奮起を促す(掲載)</p> <p>学説</p> <p>トホカミミタメの神話 天原廣師神祇考(掲載) 廣義を撰す 物本清太郎に墳水をすゝぐ事 葬儀を事とする事 我國言語研究の小史(二) 神祇の御事につきて</p> <p>先づ宮内大臣立儲令第二條の御規定に依り八月三十一日附を以て左の通り公布せられたり</p>	<p>吉岡通甫 第1号 守屋去 自和利三郎 飯田權隆 塩田武夫 角田忠行 池野英介</p> <p>宮内省告示第十三号</p>		

		<p>名古屋市役所課長野地氏曰く此頃纏つた本を一冊宛二ヶ月間に読み上げる方針を取つて居る今日の教育は編輯の即ち引き抜き物を讀まんとする傾向がある。何の方面にも一寸は解する事が出来るが纏つた脳が出来ぬから駄目であるともなかり神道研究は格別なり</p> <p>日本権民曰く新刊書物が出るに早退取寄せて居る忙しい忙しいと云ふても買つただけは読んで行けるもの。読んで行けるものでは従つて頭も古くなるから強いて読む様にして居ると後れ纏と云はれて居る神職の良業也</p> <p>名古屋市役所衛生課長曰く忙しくて読書も出来ないが和歌と俳句の書を読んで居る和歌の書は万葉集を参考として居る、お膳所専門の書を読んで居るが今日の様に新刊書が出ては読むに追はれて居る始末だと。氏子教育の責任を有する神職全部が此の心掛ありや</p> <p>他山の石として宗教家の講演筆記一二を摘載し布教師等は我が神道を顧となして國民の思想を釣りにて己の宗教を弘めるには如何に巧妙に附合の説曲解の端を存を以て諷刺を懸するかを見る實とす</p> <p>日本國と宗教(摘載)</p> <p>親愛(摘載)</p> <p>以和為貴(摘載)</p> <p>仏道と人道(摘載)</p> <p>祭祀と神職</p>			
雑録					
解説		<p>古案拾遺 前号のつゞき</p> <p>衣紋の概要(摘載)つゞき</p> <p>百人一首路解(つゞき)</p> <p>古事記語釈(つゞき)</p>			妙宣寺 市島日事師 豊田政晴師 飯田東隱 猪島法理師 藤原舜 池野英介
立太子礼象報補遺		<p>朝見式御献立は左の如くなり</p> <p>奉御膳 朝餼御膳</p> <p>十一月三日 兩陛下には立太子礼御祝として三室戸主事を東宮御所に御差遣左の御書を贈らせ給へりと申す</p> <p>東宮殿下には兩陛下に左の御献上遊されたり</p> <p>宮殿下其他より皇太子殿下に左の奉祝献上品あり</p> <p>十一月三日 午後三時兩陛下には千種の間に御列國大公使官一同の賀詞を授け給はせ給</p> <p>皇國大使外交官一同代表して奏上せる祝詞</p> <p>露草伊使皇宮より 皇太子殿下に敷書を御贈進相成りたりと申す</p> <p>東宮殿下には兩陛下に左の御献上遊されたり目出度御儀を終らせられ午後三時十分御機嫌最も麗しく御遊遊ばされ直ちに地方官其の他の拝賀を受けさせられ続いて旧奉仕官宮中席次一階三百余名宮内勅任官東宮職高等官東宮御学問所高等官の奉賀御嘉納進ばされ午後五時半全く終らせられたり</p> <p>遠邊式部省の謹語抜粋(軍制編撰の稿)(朝見の御式)</p> <p>立太子礼奉祝の為の吉松中將麾下の第一艦隊は品川灣に回航し一方海軍航空隊には飛行機隊を別にツツイの五台同十台の二機は午前九時二十分より各飛行機隊交る搭乗して奉祝飛行を行ひ殊に宮城及び東宮御所の上空にて編隊表敬飛行</p> <p>全国神職会奉賀賀表并に賀状東京府神職会奉賀賀表</p> <p>榮行御代一 古神道百首一</p> <p>十一月分案願</p>			
文苑		<p>俳句</p> <p>真宗説教二取締ノ必要ヲ認ム</p> <p>元平康命冠弁字を詠み</p> <p>井上東宮御知事講談の一節</p> <p>熱田神宮境内整理計画概要は左の如く也と聞く</p> <p>今回左の通り神社昇格奉祝相成たり</p> <p>那紫の野に於て行はれたる陸軍特別大演習御統裁遊はされ最終日即ち十一月十四日大元帥陛下には播磨郡大川村郡立農学校左御広場なる講評場に成らせられ午後一時上原參謀總長の御先導にて出御玉座に着御あらせられ大迫南軍司令官并北軍司令官の作戦経過朗読上原參謀總長の両軍の成績非常に良好なりとの講評を賜はしめされ奉祝の御語を賜りたりと申す</p> <p>今回演習地方に於ては勳王志士等に對し左の通り階位の御沙汰ありたり</p> <p>宝飯郡護国會壯況報</p> <p>蒲郡町忠孝會は今回立儲礼奉祝記念として左の修身十訓を発表し之が実行に努むると云ふ</p> <p>神仏を敬ふべし</p> <p>内務省に於ては新教育を受けたる神職を普及せしむる必要を感じ皇典講究所神職養成部修業者を官國幣社の權宜主典又は府県社以下の神職に任用し國學院大學若しくは神宮皇學館卒業生は官國幣社百司の幸用して漸次老朽神職を淘汰し神職養成の要を充てんとす</p> <p>立太子式に附随して行はせらるる宮中要人の儀は九州に於て挙行相成たる陸軍特別大演習御統裁あらせらるる為に行幸遊はさるる御都合の付語延期相成居たりを以て十一月二十七日正午在京各皇族方を始め奉り外國大使山縣大山公以下文武百官千余名を宮中聖明殿の御餐に召させ給ひ參列員一同に對し御料理の外記念の御敬章附贈當一個を御下賜相成たり</p> <p>皇太子殿下には立太子式御滞なく終了に付申書の為め伊勢神宮並に神武天皇御山陵藤山御山陵等に御參拜遊はされたり行啓御日賀は左の如く也</p> <p>丹羽郡神職會は今回副會長以下役員満期に付改選せし左の諸氏當選し將來は熱心なる古稱を皇統御守の下一層規律を正しく其面目に活動して神社の整備神職の修養等に努むる所あるべしと云ふ</p> <p>今回神職に對し左の通り階位ありたり</p> <p>昨秋御大札の際名古屋離宮に御駐泊にせられたる實所御奉安殿にて御使用相成たる白木燈台八脚案立等の御用品を記念の為め熱田神宮を始め泉社等へ十二月十一日御下附相成夫々受領せり</p> <p>天皇皇后兩陛下には去月二十九日青森県古川木駅附近に於て汽車衝突の際死者を出したる慶明百され御救恤金七百圓御下賜相成たり</p> <p>所加志郡神職會は會長自死せし者の葬儀を行ひたり</p> <p>武人の典範として邦人の敬服せる内大臣元帥陸軍大將正二位大勳位功一級大山公は病氣危篤中なりしが遂に十日午前十一時四十五分を以て薨せられたり</p> <p>博識の聞える丹羽郡扶桑村大字北郡大山町泉社針綱神社々司尾關一學氏は先頃より病氣危篤中なりしも病俄かに重り遂に十二月十日死せられたり</p> <p>豊橋市圖書館に於て十一月十九日午後一時より本会の主催に係る講演會を開き東京より見聞士を請し神道の講演を願ひ非常の効果を収めたり其筆記は速記録校正の上本誌に掲載せらるべし</p> <p>大正六年度神職養成補助費は一月中旬に於て開金せらるべしと云ふ</p> <p>大正六年度神職養成補助費五百圓通常會に於て可決確定し同年度神職常費費五百圓も同様可決確定せり因に久野尊賢氏は神職の改善は一層注意ありたりと当局者に望まれたり</p>			
寄書		<p>俳句</p> <p>真宗説教二取締ノ必要ヲ認ム</p> <p>元平康命冠弁字を詠み</p> <p>井上東宮御知事講談の一節</p> <p>熱田神宮境内整理計画概要は左の如く也と聞く</p> <p>今回左の通り神社昇格奉祝相成たり</p> <p>那紫の野に於て行はれたる陸軍特別大演習御統裁遊はされ最終日即ち十一月十四日大元帥陛下には播磨郡大川村郡立農学校左御広場なる講評場に成らせられ午後一時上原參謀總長の御先導にて出御玉座に着御あらせられ大迫南軍司令官并北軍司令官の作戦経過朗読上原參謀總長の両軍の成績非常に良好なりとの講評を賜はしめされ奉祝の御語を賜りたりと申す</p> <p>今回演習地方に於ては勳王志士等に對し左の通り階位の御沙汰ありたり</p> <p>宝飯郡護国會壯況報</p> <p>蒲郡町忠孝會は今回立儲礼奉祝記念として左の修身十訓を発表し之が実行に努むると云ふ</p> <p>神仏を敬ふべし</p> <p>内務省に於ては新教育を受けたる神職を普及せしむる必要を感じ皇典講究所神職養成部修業者を官國幣社の權宜主典又は府県社以下の神職に任用し國學院大學若しくは神宮皇學館卒業生は官國幣社百司の幸用して漸次老朽神職を淘汰し神職養成の要を充てんとす</p> <p>立太子式に附随して行はせらるる宮中要人の儀は九州に於て挙行相成たる陸軍特別大演習御統裁あらせらるる為に行幸遊はさるる御都合の付語延期相成居たりを以て十一月二十七日正午在京各皇族方を始め奉り外國大使山縣大山公以下文武百官千余名を宮中聖明殿の御餐に召させ給ひ參列員一同に對し御料理の外記念の御敬章附贈當一個を御下賜相成たり</p> <p>皇太子殿下には立太子式御滞なく終了に付申書の為め伊勢神宮並に神武天皇御山陵藤山御山陵等に御參拜遊はされたり行啓御日賀は左の如く也</p> <p>丹羽郡神職會は今回副會長以下役員満期に付改選せし左の諸氏當選し將來は熱心なる古稱を皇統御守の下一層規律を正しく其面目に活動して神社の整備神職の修養等に努むる所あるべしと云ふ</p> <p>今回神職に對し左の通り階位ありたり</p> <p>昨秋御大札の際名古屋離宮に御駐泊にせられたる實所御奉安殿にて御使用相成たる白木燈台八脚案立等の御用品を記念の為め熱田神宮を始め泉社等へ十二月十一日御下附相成夫々受領せり</p> <p>天皇皇后兩陛下には去月二十九日青森県古川木駅附近に於て汽車衝突の際死者を出したる慶明百され御救恤金七百圓御下賜相成たり</p> <p>所加志郡神職會は會長自死せし者の葬儀を行ひたり</p> <p>武人の典範として邦人の敬服せる内大臣元帥陸軍大將正二位大勳位功一級大山公は病氣危篤中なりしが遂に十日午前十一時四十五分を以て薨せられたり</p> <p>博識の聞える丹羽郡扶桑村大字北郡大山町泉社針綱神社々司尾關一學氏は先頃より病氣危篤中なりしも病俄かに重り遂に十二月十日死せられたり</p> <p>豊橋市圖書館に於て十一月十九日午後一時より本会の主催に係る講演會を開き東京より見聞士を請し神道の講演を願ひ非常の効果を収めたり其筆記は速記録校正の上本誌に掲載せらるべし</p> <p>大正六年度神職養成補助費は一月中旬に於て開金せらるべしと云ふ</p> <p>大正六年度神職養成補助費五百圓通常會に於て可決確定し同年度神職常費費五百圓も同様可決確定せり因に久野尊賢氏は神職の改善は一層注意ありたりと當局者に望まれたり</p>			衣浦漁師投 今泉龜次郎
雑報		<p>叙任及昇令</p> <p>明治天皇御製・昭憲皇太后御歌</p> <p>新年の祥</p> <p>神祇の集款(二款)(続)</p> <p>神祇内務大臣訓示の一節(地方長官に与へられたるもの)</p> <p>神職修養上の矛盾衝突の一節</p> <p>古神道と現行法(摘載)續</p> <p>神職修養論(摘載)</p> <p>我國民の覚悟(摘載)</p> <p>我國言語研究の小史(三)(續)</p> <p>國史の研究につき参考書のあらまし</p> <p>名目二百首</p> <p>開召會</p> <p>稲荷ノ大神 今</p> <p>衣紋の概要(摘載)つゞき</p> <p>古案拾遺</p> <p>百人一首路解(つゞき)</p> <p>古事記語釈</p> <p>歌</p> <p>俳句</p> <p>新年祭二就テ希望</p> <p>百中御慶会始式</p> <p>新生御慶会始式</p> <p>陸軍始官兵式</p> <p>御講書始式</p> <p>國学の泰斗</p> <p>本報に於ては神職奉務規定内務省令施行細則氏子世代等に関する規則を違からず發布に相成べしと聞く</p> <p>神社に関する諸規則の統一を計る目的を以て神社法令全書と云ふ如きものを編輯中に付採稿の上は神職會の名義にて出版し各神社郡市役所町村役場等に購求を乞ふ計画中なり</p> <p>本報立高女学校にては寄宿舎内に神棚を設け生徒をして毎朝手水を遣ひたる後先づ神棚の前に至り恭しく拝礼をなし後舎監を始め夫々に礼をなすことにせられと聞く各学校に於ても之に倣ひて神棚を設けて生徒に敬神の念を涵養せられたきものなり</p> <p>三重県神職會は本年より新に県費三百圓の補助を受くこととなりて従來着手調査中なる三重県神社誌發行並に其他の新事業計画中なりと</p> <p>瓊海郡神職會は九日午前十時より郡會議事室に於て總會を開き大正六年度歳入出支他諸簿査査せり</p> <p>丹羽郡神職會は八日午前十時より丹羽郡役所内に於て新年會を開き学神祭を行へり</p>			
281	大正6年1月29日	<p>叙任及昇令</p> <p>明治天皇御製・昭憲皇太后御歌</p> <p>新年の祥</p> <p>神祇の集款(二款)(続)</p> <p>神祇内務大臣訓示の一節(地方長官に与へられたるもの)</p> <p>神職修養上の矛盾衝突の一節</p> <p>古神道と現行法(摘載)續</p> <p>神職修養論(摘載)</p> <p>我國民の覚悟(摘載)</p> <p>我國言語研究の小史(三)(續)</p> <p>國史の研究につき参考書のあらまし</p> <p>名目二百首</p> <p>開召會</p> <p>稲荷ノ大神 今</p> <p>衣紋の概要(摘載)つゞき</p> <p>古案拾遺</p> <p>百人一首路解(つゞき)</p> <p>古事記語釈</p> <p>歌</p> <p>俳句</p> <p>新年祭二就テ希望</p> <p>百中御慶会始式</p> <p>新生御慶会始式</p> <p>陸軍始官兵式</p> <p>御講書始式</p> <p>國学の泰斗</p> <p>本報に於ては神職奉務規定内務省令施行細則氏子世代等に関する規則を違からず發布に相成べしと聞く</p> <p>神社に関する諸規則の統一を計る目的を以て神社法令全書と云ふ如きものを編輯中に付採稿の上は神職會の名義にて出版し各神社郡市役所町村役場等に購求を乞ふ計画中なり</p> <p>本報立高女学校にては寄宿舎内に神棚を設け生徒をして毎朝手水を遣ひたる後先づ神棚の前に至り恭しく拝礼をなし後舎監を始め夫々に礼をなすことにせられと聞く各学校に於ても之に倣ひて神棚を設けて生徒に敬神の念を涵養せられたきものなり</p> <p>三重県神職會は本年より新に県費三百圓の補助を受くこととなりて従來着手調査中なる三重県神社誌發行並に其他の新事業計画中なりと</p> <p>瓊海郡神職會は九日午前十時より郡會議事室に於て總會を開き大正六年度歳入出支他諸簿査査せり</p> <p>丹羽郡神職會は八日午前十時より丹羽郡役所内に於て新年會を開き学神祭を行へり</p>			
会説					
論説及講演					櫻井東花 菅克彦
学説					目黒和三郎 泰山健治 雪城子 藤原舜
雑録					池野英介
解説					
文苑					
寄書					衣浦漁師投
雑報					

		<p>名古屋市中区政務等に於て應接切つて一命を賭し幼時放蕩の信長公を謀害せし忠臣平手政公の三百六十四年祭を行ひ小学校生徒を参列せしめ市視学市長等の有益なる講演ありしと</p> <p>山梨県に於て武田信玄の墓を奉祀せんが為め今回武田神社奉建なるものを組織し十二万円余を儲金し西山某郡相川村なる武田城址に創立する計画中なりと</p> <p>新占領地青島に神社創立の計画あり遠山正雄氏其筋の命に依り渡航して社殿其他の設計を了したりと</p> <p>護良親王の御功績を方々に伝へん思召にて藤谷一六氏に命じて碑文を選せしめられし御沙汰止みと相成居りしが今回鎌倉にては該建碑の計画中なりと</p> <p>官幣大社原神宮官幣大社熱田神宮官幣大社出雲大社例祭当日に勅使差遣の儀御治定あらせられしと</p> <p>官幣社経費は従来二十一万円なりしが八万円を増加し三十万円計上して臨時總會に提出せらるるに賛成ありしと云ふ</p> <p>神宮祭主の宮は御手代として神宮に仕奉り玉ふが今回山陽宮藤原王を以て祭主御繼嗣に御内定あらせられ香川事務官等の御輔導にて神宮祭主たるべき特別の御教育を受けさせらるる趣なりと申す</p> <p>丹羽郡西成村宇浅野なる淺野正長政公宅跡建碑除幕式は四月廿五日午前十時地鎮祭を行ひ寄主中野周次郎祭司員一安藤田嶋出動奉仕</p> <p>静岡に於て五県連合神職会を四月廿八日、廿九日両日に亘り開催せられ本県神職会より守屋副会長を始め代表者有志者五十余名出席せられたり</p> <p>出雲大社総務課長三浦福男氏に付堀内内務部長井上市会議長野田熱田神宮々司鈴木同権等御来社となり廿九日午後五時より愛知県高島郡にて歓迎会を開かれたり因に全日午前十二時より県会議事室に於て同男爵の講演を聞かれたり</p> <p>名古屋市中区西區道会熱田神宮々司を総裁に仰ぎ伊藤治郎左工門 鈴木總兵衛 伊藤由太郎 鈴木松太郎 關戸守彦及泉學務課長市視学等を顧問に仰ぎ正会員年額金一円警備員同金二円を會費として釀出し敬神思想の普及を図つとあり</p> <p>今度の衆議院議員選挙には仏教界から多数の候補者が現れた広島県から港口了信金尾枝愛知県から田中善立大阪府から紫安新九郎三重県から小林嘉平治東京市から安藤正純静岡県から田中智孝山形市から平澤高岳大分県から光山白川崎島県から金澤厚和歌山県から毛利隆慶富山県から河合次示水戸市から本多文雄氏其他立候補を勧誘されている人が大分あると某新聞に見えたり</p>			
		<p>一、全国神職会ハ各地方神職団体ヲ以テ組織スル事 二、各地方神職団体ハ神宮神官官幣社府県以下神社及神宮神部署神職ヲ以テ組織スル事 三、各地方神職団体ヨリ代議員三名以內ヲ選出スル事 四、予算決算ハ代議員ノ議ニ付スル事 五、議案(予算決算ヲ除ク)ハ総子評議員會ノ議ニ付スル事 六、評議員會ハ代議員及評議員ヲ以テ組織スル事 七、予算決算ノ議定ハ評議員會ニ於テスル事</p>			
		<p>大正六年度全国神職会連合会は五月十八日より一週間の予定にて東京麹町区籠田町皇典講究所に於て開く事に決定し夫々通知を寄せられたりと其議案中本会組織変更に関する件は左の如くなり</p> <p>第三師團招魂祭は四月三十日五月一日の両日に亘り北練兵場弁天森に祭場を設け執行せらるる</p> <p>四月廿六日準備委員一同郡古野神社事務所に集合し準備に取掛れり</p> <p>四月廿九日午後一時より尾張各都市より一名宛代表者として出勤せらるる祭官一同祭場にて奉仕を行はし同夜は伏見町三番館に宿せり</p> <p>四月廿九日早朝より準備委員一同祭場に出席し神職其他の準備を整へ午後一時より斎主以下祭官一同祭場に参集し所役を定め予習をなし終りて旅館伏見町三番へ投宿す</p> <p>四月三十日未明より一同祭場に参集し神職の調理神職の装飾等各々手別をなして之を了し時の至を待つ</p> <p>本日の所役</p> <p>本日の所役祝詞</p> <p>大正六年(第三師團)招魂祭祭式</p> <p>守屋副会長の発誓</p> <p>皇太子殿下には御見学の為め奈良皇へ行啓あらせらるる</p> <p>式場第三師團北練兵場</p> <p>謹告</p>			
286	大正6年6月10日	<p>御製・御歌</p> <p>歌御会始勅語精選歌集</p> <p>新議員諸君に囑望す</p> <p>神社崇敬は國務事項(摘載)</p> <p>府令の二を以て(一)官報載</p> <p>弊教は連徳の延長也と題したる名古屋新聞の社説を摘載して他山の石となし游民視せられぬ望を促す(記者)</p> <p>独立とは何ぞと題せる修養論の一篇(農工月報摘載)</p>		田中短邦 大口嗣二	
		<p>官幣大社香椎宮々司稲村真里君が祝詞作文法の研究に資する為め草紙庵宣隆著「祭文例」の字句に於て批評せられたるが神社協会雑誌に掲載せられたれば其の一部分つを転載して初学者の研究資料に供し各々神明に仕へて中取持の本分を全ふする祝詞作文の完全を期せられたる祝詞作文の研究を促す。</p>			
		<p>私祭</p> <p>祭作法講習筆記ノ編訂訂正</p> <p>鎌倉宮碑</p> <p>入宮奉告祭祝詞</p> <p>素題</p>		藤原登	
		<p>本県理事官にして本会副会長たりし守屋栄夫氏は内務省監察官兼参事官に榮転せられたるにつき郡芳樹松津森三郎大塚末雄岡本信久竹田武勇土屋員安藤幹金三郎野田菅高野地清山崎正重三浦渡世平日比野寛の諸氏発起となり去る八日午後五時より名古屋市南區治屋町名古屋銀行集会所に於て送別会を開かれたり</p> <p>新任課長中野邦一氏は十一日午後四時四十分分島駅着にて官民多数の出迎を受け赴せられ県庁より廻される自動車にて一旦千秋樓に投じ午後県庁に出頭して知事内務部長以下に新任の挨拶をされたりと</p> <p>前課長守屋栄夫氏は十一日午後七時二十三分分島駅乗車列車にて上京赴任せられたり因に在住中本県神社の爲めに尽力せられたるを感謝し愛知県神職会より山崎火録一列贈しと云ふ</p> <p>頭國神社祭四月二十一日午前八時警備隊奉養に開扉願八時三十分陸相海軍省役隊御参進賀宮司祝詞を奏す九時勅使鳥丸奉養齋を出で拝殿階下に諸員参迎を受け本殿に進み恭しく祭文を奏し終りて齋館に下向直に宮中に帰還復命せらる皇族方を始め大臣本殿に進み玉串奉養其他の拝れありて奉養中に撤饋閉扉当日の祭典を終れり</p> <p>五月三日東京日比谷公園に於て日本赤十字社第二十五回通常總會を開かれ皇居陛下の臨御を仰せ命令を賜りたりと</p> <p>愛国婦人會第十六回總會は五月四日日比谷公園に於て開かれ総裁関野宮妃短草子殿下御臨臨御臨御を願ひ阿部伯備夫人宮司女奉養せられたりと</p> <p>御見学の為め奈良へ行啓あらせられたる皇太子殿下には七日午前九時二十五分奈良御参道明寺駅御参車夫より九時天皇皇太后皇孫御参拝あらせられ御参養後孝徳推古兩明各天皇御陵并に厩戸皇子墓所等御巡拝あらせられ午後四時十分御還宮遊ばされたりと</p> <p>天皇皇后高陛下には五月八日午前十時御出門大崎町榎ヶ崎島津忠重公新築邸に行幸啓あらせられ</p> <p>五月二日東京日比谷公園に於て日本赤十字社第二十五回通常總會を開かれ皇居陛下の臨御を仰せ命令を賜りたりと</p> <p>臨時總會召集報書五月二日の官報を以て公布せらる</p> <p>神代の昔から編劇に清く深く五十鈴川の水源なる大和紀伊伊勢三國の境にある大台原山は高さ一万尺ある高山にして昔から主があつて大きな蜘蛛が居ると言へて誰も登るものはなかつたが今回津の製紙社が其山の木を買つて伐木に着手したと云ふ此の神聖視されて居つた山嶽に五十鈴川の水源を荒とは残念なり</p>			
		<p>神社財産規定中改正</p> <p>五月二十一日例年の通り古渡町山王に於て例祭并に重祭を執行せられ中野理事官始め県庁側からも多数御参拝相成り各都市より代表者出動齋館に祭典を行はれたり因に遺族の参拝殊に多く何れも懐旧の情に堪へぬ様になりきと</p> <p>六月十一日を以て本年度愛知県神職会總會を名古屋市中に於て開催せらるる事に決定せられ五月十四日県庁内に理事会を開き夫々役員を定め準備に取掛り各都市神職会長に宛てて会員出席勧誘方并に六月十二日各都市神職会長及協議員連合会開催に付き出席せられ度旨依頼状を發したり</p> <p>今回皇典講究所講師後六位青戸波江氏今年遠居の事に達せられたるにつき有志の人々発起せり此の方法にて復舊の義を表し老後を慰むるに見る方法を講ずる事とし講習員其他の賛成を求めらるるに付通知方依頼し來れり</p> <p>今回本県神社寺議にて現行神社法規を調査編纂せられたるを本会に於て発行する事とせり</p> <p>別項の通り六月十一日開催せらるる總會の様様并に講演筆記等多数の記事掲載すべくに付紙数非常に増加する見込なれば本号の紙数を割きて次号に譲ることとせり</p>	五月二十二日県公報にて県令第四十八号を以て明治四十一年九月県令第七十六号神社財産登録及び管理並に會計に関する手續中左の通り改正し發布の日より施行する旨發布せられたり		
287	大正6年7月10日	<p>御製・御歌</p> <p>内務大臣訓示</p> <p>内務部長訓示</p> <p>日本民族興衰の衛生</p> <p>國体の根本義</p> <p>時事有説</p> <p>素題</p> <p>雜句</p>		高木兼膏 野田晋磨 高木兼膏	

		<p>今回御上京の李王殿下には六月十四日午前十時二十分参内鳳凰の間に参進天機を奉迎遊ばされ世子殿下が梨本宮方子女王殿下と御結婚御内勤の御礼並に李王殿下の御伝言を言上遊ばされ次で桐の間に進ませられ皇后陛下に御対面御挨拶あり夫れより實所に参進大前に御拝礼ありて宮城御退出あらせられ更に午後二時三十分高輪東宮御所に成らせられ皇太子殿下に御対面の上御宮へ還御遊ばされたりと申す</p> <p>五月十四日官幣大社出雲大社御祭につき掌典河越子爵勅使を承り参向相成りたりと</p> <p>熱田神宮御田植式は六月十五日午後一時より行はれ西春日井郡東春日井郡愛知郡碧野郡より模範青年二名宛出仕し野田宮司以下各欄宣出動厳かなる祭典を行ひ御田植に玉串を捧げ禰宜神職に田植歌を唄ひ青年神田に田植式を執行し農会長代理原口産業課長各郡長山崎農林学校長等参列せられたり</p> <p>李王世子には六月十日李王殿下御出迎のため御来名遊ばされたるが翌十一日松井知事堀田内務部長寺兵衛課長の御案内にて熱田神宮に参拝せられたり</p> <p>熱田神宮御祭</p> <p>熱田神宮神輿渡御神事</p> <p>皇太子殿下奈良県下各官幣社御参拝次第</p> <p>九段靖國神社</p>			
		<p>元神職職務所建物を赤却せし願未井に赤貫契約書現金及書籍器具の保管等当回改選の結果当選せられたる新議員氏名左の如し</p> <p>大正六年度全国神職会通常会へ参列のため上京を命じたる戸田太郎尾崎古雄両氏より本会長へ復命したる概要</p> <p>兼て計画せられたる愛知県神職会総会は愈六月十一日午前九時より本県会議事堂に於て開催せられぬる盛會を極めたり</p> <p>愛知県神職会総会日程報告</p>	<p>議事日程</p> <p>決議せられたる事項</p> <p>建議案中採択可決セルモノ</p> <p>内務省諮問事項</p> <p>談話會議談案</p> <p>実行委員報告</p>		
		<p>内務省訓令第一号</p> <p>林寺保管林規則改正</p>	<p>一、官吏タル本分ヲ恪守スル事</p> <p>一、官吏タルノ品位ヲ保ツ事</p> <p>一、繁雜ヲ省キ簡捷ニ就ク事</p> <p>一、公私ノ別ヲ明ニスル事</p> <p>一、秩序ヲ正シシテ言語ヲ慎ミ機密ヲ保ツ事</p> <p>勅令第六十七号</p>		
288	大正6年8月10日	<p>祝歌・御歌</p> <p>神職の活動</p> <p>本県知事訓示要領の一節 国民道徳の擡起と敬神思想の擡起</p> <p>岡田文部大臣訓示中宗教に関する一節</p> <p>日本民族垂示の衛生(承前)</p> <p>団体の根本義(承前)</p> <p>神前結婚式概要</p> <p>古妻治療</p> <p>百人一首路帳(つゞき)</p> <p>八月分業績</p> <p>俳句</p> <p>醒めよ神職</p> <p>私立法令文庫</p>		<p>高木兼費</p> <p>野田哲蔵</p> <p>池野丞介</p> <p>蓮城津の一祝人</p> <p>村木龍次郎</p>	
		<p>八名郡二テハ七月七日郡内神職ヲ郡会議事堂ニ召集シ林郡長ヨリ敬神思想普及ニ関スル訓示アリテ引続キ社務ニ関スル注意事項ヲ示サレ数項ノ諮問案ニ付答申セシメ其他打合事項ノ協議ヲ為シタリ</p> <p>成金の巻修</p> <p>成成金が濱御海水浴場第一流の旅館へ二階全部を賃中借受けたいと申し込んだ金の有るに於て世人の避暑場を奪ひ去らんとする没人情達の真沢遂に他人迷惑となるを憂むべきなり</p> <p>成成金が御振舞の慶福へ京人形に五円紙幣を腰巻させて引いた如何に失敗極まる所為なるか此の引物を喜んで受けた客も亦無恥の痴漢なりと言はねばならぬ</p> <p>藤岡好古翁の訃</p> <p>七月十八日西加茂郡長は郡内各町村長を都街に召集し町村長會議を開き訓示せられたる事項の中神社神職に関する件左の如くなり</p> <p>七月十九日(旧六月初日)高藏神社井戸賑祭は非常の賑合にて井戸の二丁程手前から二列になり進んで順次井戸を覗き清水を瓶に買い拝殿の前に至り巫女の鈴を揺き一心に子供の無事を祈るもの未明より夜中迄引切らず押寄せたり</p> <p>又丹羽郡池野村なる尾張富士浅間神社石上祭も十八日より十九日へ(旧五月晦日六月初日)に亘りて行はれたるが近年稀なる賑合にて金山篝火と提灯にて飾られ石釣の音頭にて動搖めき参詣人を以て充滿せり因に赤十字社より救護班出張して(夜間に備へられし)名刺(は)査閲引をなし(救護)運送せり</p> <p>式部長官丹羽氏共伯祖第一宮公を祀れる岷阜東大塚の常業神社は現今無各社なるを県社に昇格出願進中なりと</p> <p>七月三十日明治天皇五年祭の儀を行はせらるゝに付岡陸下御名代左の如く仰付られ山陵御参向相成べしと</p> <p>銃丸が当たつても通らぬ甲冑が米國で発明され米國軍は近く之を採用すると云ふ。発明者は米國の眼科耳鼻咽喉科ブリュースター博士なり是はベシレヘム鋼で出来て居ると或る新聞に見ゆ</p> <p>七月二十二日付にて岡崎市大字伊賀鎮座郷社伊賀八幡宮は県社に知多郡成岩町願座無格社成岩神社は社社に昇格発表せられたり</p> <p>丹羽郡神職会は八月下旬に於て講師を聘し祝詞及祭式の講習會を開く筈なりと</p> <p>中島郡神職会並兼東郡神職会七月十二日ヨリ三日間熱田神宮鈴木權宮司ヲ聘シ連合祭式講習會ヲ一宮町公會堂ニ於テ開催セリ講習員ハ炎暑ヲ冒シテ熱心ニ講師ノ指導ヲ受ケ多大ノ効果ヲ收メタリ</p> <p>七月二十四日二十五日両日間岡崎書記岡崎頼託尚名出張して便丁を替し本会藏書の大蔵書を熱田神宮境内鞍馬堂と西楽所との間にある大楠木の下に延を敷きて二十余冊一箱に括けて行へり</p> <p>江藤大佐葬儀は七月二十五日午後一時半樂地水交社出棺青山斎場に於て執行せられたり</p> <p>権原神宮々々桑原芳樹氏皇典講究所幹事に就任相成たる應七月十三日付を以て皇典講究所より本県分所長へ宛通知ありたり</p> <p>本年度養成部高等科生徒氏名</p> <p>同初等科生徒氏名</p>	<p>一神社事務ノ整理ニ関スル件</p> <p>一神職奉仕数ノ制限ニ関スル件</p> <p>一神職ノ修養ニ関スル件</p>		
		<p>七月二十七日県公報告示</p>	<p>告示第二百四十四号</p> <p>告示第二百四十五号</p> <p>告示第二百四十六号</p> <p>告示第二百四十七号</p> <p>告示第二百四十八号</p>		
289	大正6年9月10日	<p>御製・御歌</p> <p>歌御会始勅願精選歌集</p> <p>神職の努力</p> <p>国民精神の指導者たるべき神職諸君の反省を促す</p> <p>まなの魂しるへ</p> <p>我団体の世界的地位(転載)</p> <p>巻修の排斥すべき理由</p> <p>真実心に信仰の人となり續た詩</p> <p>大國主義の実現</p> <p>天和魂の発揮</p>		<p>黒野強良</p> <p>竹田武男</p> <p>井上哲次郎</p> <p>農工月報(摘載)</p> <p>(修養の研究)</p> <p>(法学博士上杉慎吉氏講演筆記摘載)</p> <p>(國民体位摘載)</p>	
		<p>華嚴區宣讀めしの祭文例</p>	<p>祝詞は神社に奉仕して祭典を行ひ神慮を慰奉りて神助を祈る神職が神人相感の氣合を發す機關にして祭典の主眼たるものなれば神職の生命とも云ふべき最も大切な事柄に屬す。然れば主要なる祭典の祝詞は悉く内務省に於て定め奉命を以て之を公布せられたるなり。要に於て神職は遂に祝詞作文及其研究の必要なきが如く(誤解し)祝詞作文の研究を怠るものなきや否や。疑なき能はず果して知斯ものありとすれば誤解も亦甚しと云はざる可からず。自ら祝詞作文をなし能はざるものが如何に他人の作文せる祝詞を如何なく讀み得べき必ず發奮に於て句語に於て作文者の氣に入らぬ處あるを免れざるべし。然りて作文者の意を發する祝詞奉誦が何として神慮を感動せしめ奉ることを得ん神慮不感の祝詞奉誦は無意義に終らぬのみ故に神職は從來祝詞の研究に多大の精力を傾注したり。吾等現神職も益々精密に研鑽せざるべからずと信じ氏が華嚴區宣讀めしの祭文例に就きて所見を記されたるを採録して参考に供し諸君の研鑽を促す。</p>	福村真里	
		<p>神社の修造</p> <p>聖斗の話</p> <p>我國に於ては古來酒は芽出度ごとに用ひられ祭祀は勿論重要祝宴等酒あらざるはなし</p> <p>虎神と岸土神と</p> <p>近年祭々新嘗祭が地方の神社で行はるゝ</p> <p>古代皇族の一斑</p> <p>小橋公の室内蔵氏(天原屋提燈)に出でたり</p> <p>近時物価騰貴の爲生活難を託つ者漸く多くなり随つて是が救済策を研究する人も現れて来た。</p>		<p>藤原眞</p> <p>石井泰次郎</p> <p>当山春三</p> <p>淺井瑞一郎氏談摘載</p> <p>長崎摘載</p> <p>全上</p>	
		<p>百人一首路帳(つゞき)</p> <p>古事記語釈(つゞき)</p>			

		文苑	鈴の屋集の抜書			池野英介
		寄書	和歌一首			今泉龜治郎
		雑報	敬神、典儀資料 故乃木将軍学習院長たりし時在學生徒の父母身元調をせらりしに或侯爵は非 常に怒つて身荷も皇皇の藩屏たる者等何で調査の必要がと云へるを聞き 大將亦火の如く怒り父母の身元調査が何で不都合なかと責ひ返されしに流 石の侯爵も有休に父母母妻某と神妙に届け出しと云ふ乃木将軍にして始めて此 の事あり世は滔々として権力に怒るゝ者多し 有馬に御遊中の一 伏見宮博恭王殿下有馬町に御成の朝御奉迎上ぐる町民 等が炎天に脱帽せるを重より御覽あり 東京神職会有志者団は一行十八名伊勢神宮を始め奈良歌傍京都等の各神 社を巡拝して帰京せりと云ふ 大阪神士は歴代帝後巡拝団を組織して一行三十二名嵯峨天皇陵を始め近畿の 御陵を巡拝せりと云ふ 鎌倉の勤王国学者藤正五位種田直助翁の三十年祭 國學院大學第二十五回卒業者中本島人は左の四名なり 全国神職会規約今回左の如く改正公布せられたり 古来日本には靈の神があつて養靈をする者は必ず前に其の神を祭り心身を清浄 にしてそれから着手する風俗があつたのである今日では世の中が忙しなり且つ 一つの迷信だと云ふやうなことからさう云ふことなどは余り行ふ者がなくなつたや うであるが然し其の神を祭ることとは實際其の仕事に當る技術家の精神を清浄神 聖ならしめる上によほど力があるに相違ないから大膽い習慣だと思ふ 室後景行天皇石山村依御にては毎朝出動の時先づ神前に持れし出動簿に捺印 すること従つて飲食物を調理したる時は先づ神前に供し然る後書を取る事に 申合せ村長以下東員一同之を案行しつゝありと云ふ			大森皇后宮太夫謹語摘載
		本会記事	祭式講習会 祝詞祭式検定試験			
		各都市神職会記事	知多郡神職会 北設楽郡神職会 西三十四郡神職会連合講習会 樽豆郡神職会 東三十三郡神職会同会 丹羽郡神職会 西加茂郡神職会 学院受領者 諸告			
290	大正6年10月10日		御製・御歌 歌御会始勸語撰歌集			
		会説	府県社以下神社神職待遇の向上を望む 國民精神の指導者たるべき神職諸君の反省を促す			
		論説及講演	見聞録	新聞雜誌又は書籍文書等閱讀中一寸面白と思ふた事柄や学者先生の講演談 話を聞くうちににははと感した事等を筆記せる物を抽象的に書いて諸君の消閑材 料となすこととす		黒野須良 記者
		学説	華嚴經實際の祭文(つゞき) 平安朝の和歌並に歌人			福村真里 柴田鎮正 池野英介
		解釈	古葉拾遺(前号ノツヘキ) 百人一首略解(つゞき)			
		文苑	藤岡先斗の御書に申す詞 十月分書讀 太極陰陽 菊花をむひにやるとて			今泉英介 顯正 中野知佳 加藤鏡五郎
		寄書	我國の皇道ハ世界ノ光道ナリ 青島戦利品にして今本県に下附さるゝと云ふ品種數覽			
		雑報	同省山崎會計課長は夏休に恩賜の衣冠東帯と御紋章入銀製洋番を郷里へ持 し帰り一村の老人達を招待して恩賜の銀盃で一献つゞきして廻り気満堂の時を 見計ひ件の衣冠東帯を着用して列座の前へ出て一同に拝見させられたりと云ふ 九月二十三日後關成天皇三百年御式年祭に付京都府紀伊深草村深草北陵 へ勸進皇宮地蔵夫氏奉向相成たりと申す 台湾暴風雨罹災者御救恤として兩陛下より金壹千八百円台湾總督府へ御下賜 ありたりと 郡尚武会より精郷兵に軍服を贈与して優遇せる此軍服なるものは日本魂の光と して軍人の誇とする所なるに毎年執行さるゝ間間点呼に応召する際之を着用せ ず納物の着流にて出頭し執行目次目玉を頂戴する不真面目なものである軍 人たる精神の腐つた輩なりと嘆息して語れり 大正一二年の野に陸軍大演習祭行の際五位を擧り賜はりし勳王家故水谷 民彦翁の記念除障式は九月廿二日午前十一時執行され加藤慶次氏の式辭に 始まり神職祭典を行ひ知事以下順次五車を擧げて式を終れり 来る十一月十三日より江濃一帯の山野に於て挙行せらるゝ大演習御統儀の爲め 十一月十一日東京御発車幸あらせられ十七日彦根川瀬間に於て親兵士行は せ給ふ御予定なりと申す又皇太子殿下には陸軍大尉の御資格にて大演習地へ 行啓あらせらるゝと申す 来る十月廿三日廿四日執行相成る第十五師團招魂祭々式執行方を県神職会へ 依頼相成たりと 九月三四日に亘り國學院大學今年入学者選抜試験を行ひ其結果入学を許 可したる者大学館三十四名館範館五十五名なりと云ふ 栃木県知事は左記の事由により府県社以下神職に對し休職処分を行ひたりと云 ふ			
		各都市通信	海部郡神職会 東三十三郡連合神職会講習概況 東春日井郡神職会 丹羽郡神職会 額田郡神職会連合神職会は左記の通り祭式作法講習会を開催せり 中島郡農業郡連合神職会 額田郡神職会議			
		本会記事	九月六七日の両日同名古屋木澤町山王講堂に於て県下各都市典礼若くは其 候補者並に有志者出席講師鈴木権宮司指導の下に祭式作業の研究をせられたり 七日午後三時より講師製券の爲め会所に於て講習会を開催せり 本年八月施行相成たる祝詞祭式有様試験に合格せしは左の十一名なり 本会専らして本報社専任職員主席風法学士竹田武男氏は今回東京府農業内 務省地方局に榮転せられたり 本会協議員中左記二名改選の通知ありたり 諸告			
291	大正6年11月10日		御製・御歌 歌御会始勸語撰歌集			
		会説	神社拝礼の意義を明確にすべし 神道祭に其人無きや(一節摘載)			櫻井東花
		論説及講演	山式市莊を論じて神道界の反省を促す(概要摘載)神の道 祭典の精神(國民的精神論)			某博士 宮地殿去 柴田鎮正 藤原登
		学説	平安朝の和歌並に歌人(其二) 朝賀沿革 見聞録			
		解釈	百人一首略解(つゞき) 氏子入道者奉告祝詞 十一月書讀			宮永安美
		文苑	祭式講習会中の雑感 検定試験後合否を待つ間の所感 敬神典儀資料(一)私立法令文庫 地名類聚抄屋張三河ノ郡村名			村上義兼 木村龍次郎 池野英介
		雑録	神前結婚式次第 國民一般に今日の如く(教育の普及せざりし幕府時代には權宜和尚医者を物議と 擧て何事でも此の人等に関れば了解として知れぬ事は權宜に聞けと言ふ謬 さへありたり) 石原倉敷所長石塚右玄氏簡易療法 薬草及之を用いてきゝめある病氣其用法 考古管見 斎戒実行二説イテ	柳原四郎氏著「神前結婚式作法便覧」と云へる裏に名の如く簡便なる一枚綴 のものを寄せられたるを見るに式場座席用具等の圖を挿み式次第法等平易に 示したれば一般に配布せば奨励の一助たるを失はざるに式作法の一端を抄 録		今泉龜治郎 羽化仙史
		寄書	斎戒実行二説イテ			
		彙報	京都府紀伊郡伏見町大字丹後同郡深草村大字深草北領内同郡堀の内村大字 堀の内大字明も堀の内なる御遺蹟は日御尊を奉り奥地諸君を遷げられる結 果三ヶ所其伏見宮家御先祖の御墓所と判明し九月十一日宮内省告示を以て御 治定の旨左の如く発表相成たり 九月廿七日宮内省告示を以て左の通り御陵墓御治定相成たり 九月二十日付を以て左記の神社は神職常備を供進し得べき神社と指定せられたり 十月八日左の通り暴風雨罹災者へ御下賜の御沙汰ありたりと 文二十日左の如く御下賜の御沙汰ありたりと 以二十日左の如く御下賜の御沙汰ありたりと 神宮神嘗祭勸進使は祭典予節神嘗公高氏伏見院天皇六百年御式年祭に付 山陵奉勸進使は堂島伯耆丸光太氏に御も御せられたり 東久運宮御着帯式は九月十七日の吉辰を以て麻布御殿に挙げさせられたる御 模様なりと申す(宮内事務雑誌)左に転載することとせり			

295	大正7年3月	附録	御歴代一覧表補正			
			御製・御歌			
			歌御会始勅願撰歌集	社頭折世(明治二十四年)		
		論説及講演	日本人の道徳と因者の習慣(掲載)			
		学説	神祇に就て(掲載)		遠藤隆吉	
		解説	神祇		猪熊逸彦	
			字神祭祝詞		塚田晋彦	
		文苑	河春月			
		業報		御政事始式に於ける臨時神宮祭主久邇宮多喜王殿下より素上に係る奏上文		
				御講書始に於ける御進講者氏名		
				新年宴會を宮中豊明殿に催せられ賜りたる勅語並内首相奉答符		
				京都洛下下嵯峨御臨川寺東叡裏の元慶寿院旧跡を長慶天皇の御陵墓と推定せられあり		
	千家專福男告別式は一月六日青山斎場にて行はれ喪き辺より祭案料として金千両御下賜					
	要帳編越智郡に於ては訓令を以て郡内郷社村社大祭に供進使参向の節斎館社間途中行列					
	十一月二日熊本市に於て開催せる九州神職連合会にては神祇に関する特別官衛を設けて神社制度の統一を期する問題を決議し実行委員を挙げて着々奔走尽力せしむる事とせり					
	全国神職会幹部にては特別官衛設置に関する新運動の方針確立の爲め十一月二十七日皇典講究所内に会合して協議を遂げ翌二十八日更に会合して一通の覚書を作成し具体的案件とし三十日桑原幹事長今泉福本高山立花宮西等相携へて先づ寺内首相水野内務次官等を歴訪して種々意見を開陳する処あり					
	全国神職会臨時大会					
	本会に於て兼ねて計画中の神職其他篤行者に対する表彰に関し今回規程を設けられ其の該当者は毎年総会の際を以て表彰せらるゝこととなり					
	各都市通信	知多郡神職会通信 海部郡神職会				
296	大正7年4月	雑録	支出之部			
			御製・御歌			
			歌御会始勅願撰歌集			
			国民性の発揮は敬神に其因す			
			祭祀と神職宗教との區別		有賀長雄	
			神社意義の根本的解決如何(掲載)		櫻井東花	
		学説	平安朝の和歌並に歌人(つゞき)		柴田鎮正	
			放言豪語は禁物		福島安正	
		雑録	余の便方を知らぬ當者		新藤元福彦	
			生活の上の手		幸田高徳	
			虎堂訓練の一端(掲載)		横村謙太郎	
		解説	百人一首略解(つゞき)			
	和歌					
文苑	所感		藤田義祐			
	額田郡神職会月次和歌(一月分)					
	花下忌憐					
雑報		大正七年度予算に編入せられたる神社に関する費目				
		神宮身振改革に付皇太后陛下の通り御下願御成たり				
		皇后陛下には常に貧民救恤に大御心を注がせられ今回皇后官職より東京市に對し左の御下賜金の御沙汰ありたりと申す				
		神祇に関する特別官衛の設置を望むの建議案				
		茨城県神職会は客年十二月本会の決議に依り会長の名を以て神祇に関する独立官衛設置の件に付き内閣総理大臣に宛て建議書を提出したりと				
		愛知県自派第二回総会に於て決議せられたる祝儀費の費用を節約すること				
		愛知県知事は動後の美風を尚び質実の良俗を養ひ冗費を節約し貯金をなし他日に備ふことを諭旨第一号を以て善く諭旨せられたり				
		各都市通信	知多郡神職会 西春日井郡神職会 海部郡神職会			
		本会録事				
		御製・御歌				
297	大正7年5月		歌御会始勅願撰歌集			
		会説	熟讀以て実徳を望む			
			皇統万世一系の内容と其新理解		西川玉壺	
			神祇に關する特別官衛設置建議案應答書			
		文苑	招魂祭祝詞			
			和歌			
		雑報		官祭招魂社移転及合祀		
				各国の物産		
				愛知県農会は食料独立に関する本県知事の諮問に對し大体左の如く答申せり		
				新藤綱次山は神宮参拝		
				朝鮮南山の頂に遺棄せられたる云ふ朝鮮神社御遺費		
				改葬さるゝ神皇御曆		
	全議案に於て問題となり、神職養成に就て					
	大正四年中日本の人口動態統計					
	一月十一日伊良湖湖に於て貴衆兩院議員に試射見学せしめられたる今回創造の巨勲					
	各都市通信		東宮茂郡神職会			
298	大正7年6月		御製・御歌			
			歌御会始勅願撰歌集			
		会説	官制神職神職修給令改正に依り府県以下神社神職修給増額の実施を望む			
		論説及講演	国体の尊厳に神社の意義に就て野田司司の講演せられたる概要を筆記して茲に掲載す(掲載)			
		学説	平安朝の和歌並に歌人(つゞき)		賀茂百樹	
			平安朝の和歌並に歌人(つゞき)		宮地殿水	
		解説	古案拾遺 前号つゞき		池野丞介	
			百人一首略解(つゞき)			
		文苑	和歌			
			和歌		千賀信彦	
		雑録	録録		東嶋 藝齋	
			伊勢の神宮文庫案内			
雑報		各都市通信	丹羽郡神職会			
		本会録事				
		叙位及封令				
		新刊紹介				
		御製・御歌				
		歌御会始勅願撰歌集				
	講演	御大典に就きて(修紀殿供饗の儀)		松井茂謙談 堀田義次郎		
	学説	万世一系天運無窮の神話と其内容		西川玉壺		
	解説	百人一首略解(つゞき)				
		神伝中臣成講釈(つゞき)		大石正直		
299	大正7年7月	雑報	全国神職会に於ける水野内相訓示の一節			
			地方長官會議に於ける内務省諮問事項中神社に関するもの			
			府県連合會會議に於ける諮問事項及回答事項左の如し			
			宮司談話會に於ける小学教育に対する希望の諮問案に就て大要左の如き答案をなすこととせり			
			立官問題実行委員			
			神社修費補助の途拡張に關し各府県に発せられたる神社局長の通牒			
			平田全書完成奉告祭			
			宗敎家の組織せる工場敷設開會式			
			海部郡新設町大字御前にては氏神社の基本財産達成の目的にて氏子中出生産、移住者、縁組者家督相続者等は規程の金額を神社へ寄附する規約を設け三十ヶ年間継続義務とせり			
			熱田神宮神祇擴張會組織せられ熱田神宮境内整理の計画案表せらる			
			宮城理事官より本県理事官に兼任し中野前理事官の後を襲ふて本会副会長に就職せられたる渡邊豊日子は前任地に於て神社事務をも管掌せられ神社に付きては多大の抱負を有せらるゝといふ			
			七月四日午後二時名古屋市外日東郊園に於て香川県警察部長に兼任せられたる元本会副会長堀田義次郎が退任を期して退任式を期し			
	内務省神祇修給令に改正を加へ修業年限を二ヶ年に延長し一学年に於て国史国語漢文等中学科を修了せしめ二学年に於て神祇史其他神祇必須の専門科を修めしむるに決し収容人員を百名として九月の新学期より実施する事になり					
	神祇に関する特別官衛設置建議案の主旨に基き目下内務省神社局に於て調査中なるが組織は内務大臣の所管を変更せず現在の神社局を適當の名称に改め神社調査会も大に拡張する方針にて明年度予算編成迄には成果を得べく調査を取急ぎつゝあり					
文苑	和歌					
寄書	祭記八國家ノ大礼ニシテ大和魂ノ根本ナリ					
本会録事		各都市神職会動静	中島郡神職会業報 青年会/美幸 出雲団体大社参拜/記(知多郡神職会)			
		愛知県神職会総会記事等				
300	大正7年8月		御製・御歌			

		一月十日付を以て園幣中社大泉神社宮司被仰付たる小林本十郎氏は金月二十一日赴任せられたり 大正七年十二月十七日附を以て会長より各都市長へ左の如き依頼状を發せられたりと		
306	大正8年	御製・御歌 歌御会始御預選歌集 論説 地位と職位の区別を論ず 講義 國學院大學に國法科を設置するの必要なる理由 内務省諮問事項に就て 宇説 長慶天皇の御事につきて 解説 新古今和歌集略解 文苑 原首相神宮參拜の御奉奏祈詞 天皇皇后高陛下には一月二十八日午前九時廿五分宮城御出門九時四十分自地方を始め奉り文武百官の齊集山に御機嫌願しく皇宮御奉進 今日御書字文學社本社本部は六月間校訂準備委員長に任せられたり 李太子國葬の件は勅令第九号を以て左の如く公布せられたり 李太子國葬当日畫帳を安置する大儀 明治神宮前に建設する大鳥居の用材 哈爾濱郊外に神社を建て日露戦役当時哈爾濱大鉄橋破壊に赴き露人に発見されて郊外の露と消えし國士横川省三津橋小西氏を記する事なし 今回國學普及の爲め國學院大學拡張の事上聞に達し御内務省一萬円宛十ヶ年御下賜の御恩典を被れるに付き第一期拡張として道義科研究所の設置典義館の調査任教員の増加圖書の蒐集文庫の建設講演開催等をす事にし第二期には國法科を設置する事 一月廿八日陸軍省は左の如く引揚部隊公表せり 静岡県駿東郡大岡村宇治道の地 陸軍省にては来朝中の仏國飛行機一行中の軍 李太子國葬に付勅使として日根野侍從皇后宮御使 一月廿五日衆行内閣知事教育会棟上にて大正七年度協議員を開会し選議員委員とす 本会事業として兼てより計中の雜祭式編纂に付き二月廿日左の四氏に委員を囑託せられたり 本会神職養成部に於ては来る四月入學せしむ可生徒左の通り募集願書受付は三月末日限りとす 本年度神職養成部卒業生は約廿三名の見込みなり 大正八年度收支予算(可決確定) 大正六年度收支決算(認定)	宮地直一 清水澄 野田哲郎 藤原貞	
		御製・御歌 歌御会始御預選歌集 論説 格別御書字問題は今如何になれるか 講義 歴史より見たる我國體 講話會議に列席せらるゝ西園寺公 説園 私の考ふる所を以てすれば、道徳を離れて法律なく、又法律を離れて完全なる道徳はないと思ふ 明治十二年の夏、夏米利加の前大統領グラント氏が日本に來られ、國賓を以て遇せられ、浜の離宮に於て先帝陛下と國政上に就き御懇談上げた時、御下聞に對してグラント氏嘗て 日本を厭はば中野實度御學理御終了遊ばされたる 國民忠懇養成上神官神職優待の意見書(以上) 廣り捨御免の日本 文苑 東宮御成年式奉祝唱歌 常清八景 皇陛下には五月十六日午前九時三十分京都御所御出門 皇太子殿下には五月十九日東京御奉進 四月三十日、五月一日の両日に亘り善三師團臨時招魂祭は北練兵場官祭招魂社に行はれむ 五月十七日より開催せらる本年度全国神職會議へ出席の爲め本会代議員榊原四郎、鈴木達彌の二氏上京せり 五月二十一日古渡町山王に於て例年の通り大祭及び嘗察を執行したり 五月二十六日の両日東海五県連合神職會議を長野市公會堂に開催せり 和歌の玉種中まだ掲載し得ざるものあり取察を乞ふ 大正八年四月九日法律第四号を以て史蹟名勝天然記念物保存法を發布せられたり 史蹟名勝天然記念物保存法は大正八年六月一日より之を施行す 勅令第二百五十八号 勅令第二百六十一号 廣告 廣告	辻善之助	
308		御製・御歌 歌御会始御預選歌集 論説 神秘的神事の復興を望む 戦後國民の覚悟 中橋文相は言葉則文語にして又口語たるべき新案の創作に廣心し、牧野參事官に勸業研究を委せしめつゝあり の回案に於て着手せざる長力過激に就て 神道家は社会政策を以てはなすべからず、政治家を教導して社会政策を実施すべき根本問題を提示する事が出来る、又富業を感化せしめて社会公共の爲めに尽さしむることが出来る、故に神道家は自らハハ問題を解釈することは不可能であるが、間接に之を解釈する道を講ずることは出来る 戦争開始の当初、我が藥木博士は今の戦争の爲め、思想の源泉不幸にして濁濁すべしと悲觀した、果然戦争以來、思想の源泉濁濁したものは独日本のみではなく、欧米に於ける思想も亦著しく濁濁しつゝあり着戦時中歐米に於て出版されつゝある書籍は、悉く低級なるアモクラシーを説いたもののみである 思想は歴史的産物である、思想の価値を判断する 國家として最も憂慮に堪へざるは、来る十月米國に於て開かるゝ國際労働會議の結果なり 人道と云ひ、平和主義と云ひ、只濁に之を口にするものはあれども、確たる教義を立てた道徳家なければ、宗教家もない文化の程度高脚きを証するものにあらざる、今や個人の豊饒漸く絶えて國家は蠻態度の中に彷徨す 日本の女子は元來綺麗を飾り、男子に対する肉体的犠牲者になるを以て、高級な婦人と看做し、働く婦人は卑賤なる女の如く知解して居る 支那國民は目前の利害に盲動して又前途を顧みず而も何れの方面よりも煽動され易く、又師の前に勢威を誇りて利息を逞し、弱者の前に跳ぎて只富愛情を貪るの國民性を有す 天下の事上に立つ役目の人間が下風に向つてアへのコウだのと干渉がましい差圖をするやうでは、下風に居る者が思ひ切つた活動はされぬ 私達も決して貴族と平民との間に差別を付けるやうな事は好まませぬが、人と人との間に於ける礼讓は社会秩序上絶対的のもので人として礼讓がなければ、禽獸と何等區別がありません 去二十三日眞の官邸に三教七八八派の代表者九十一名を招待し、宗教を通じて思想問題を整理すべく計画し、自己の所見の一端を彼等が平生の説教に反射せんことを希望せり 新古今集略解(つゞき) 文苑 故久保原都翁を誄 兼語和歌 五月十七日より一週間東京皇典研究所に於て開催せられたる全国神職會議に於て議決せられたる議案左の如し願して出席者は案に二百二十六名なりしと 地方官會議に於ける神社局長の指示事項は左の如し 静岡県田方郡菟山村は源朝公再興の地として有名なが今回同村有志者等は島津公爵の贊助を得て同地に朝朝神社を建設せんと協議中なりと 鉄道院の旅行案内に種々研究の結果敬神思想普及又は発揚に資すべき記事を掲げた『神話』と云ふ一項を新に加へられたり 阪谷男爵を会長とせる中央乃木会は赤坂区新坂町に乃木神社創設の認可を得たれば府社にすと云ふ説又別格官幣社にすと云ふ議論もありしが明治神宮の増社とたつた方が意味も深故府議の本意でもあらうと云ふことになりしと云ふ 白旗開戦に當り身代神官に勅使御奉進臨時御執行あらせられ國文稻穂の官御報告あらせられしが近(平和克復の)頃は天皇陛下御親しく御報告の御奉進御執行あらせらるゝと申す申して其の時期は本年秋の頃ならんと申す 東京殿下の御在所たる高輪東宮御所は御成年式も御終了の事なれば今後総ての間に於て御不便を感ぜさせらるゝより東宮御所御改築あらせらるべしと擇察し奉るとの趣なりと申す 我陸軍省にては今回飛行練習教授の爲め来朝の仏國飛行機特校一行に記念品として我が武士道の精華たる日本刀一振贈進する 六月四日午後七時遷去せられたり致遠大寺奉迎の御略解 福島県名目前神職總會に於て一町村に於て總社を定め諸種の報告祭及び國家の祭祀を此の神社に行ふことを協定し町村費の補助を受けることを町村長會議に建議せり 小倉郵便物料金左の如く改正四月十五日より実施せられたり 厚張全國高等小学校長會議に於て決議せられたる問題 陛下より故徳大正公に願はれたる諱詞は左の通りなりと申す 内務省官制改正は左の通り六月十一日發表せられたり 安全第一協會の内田嘉吉氏等四百余名の有志が計畫せる安全週間 麻田神社神祇擴張工事は敷地買収も一部を除き買収済となりたるを以て當局者は近く工事に着し一部の積聚地土に對しては止せず土地収用法を適用して事業の進捗を為すことなれりと云ふ 海部都督高野大官廟ノ上新嘗祭穀田御田儀式 東京殿下には六月十五日午前十一時御出門御茶の水教育博物館に開會中の災害防止展覽會に行啓	床次竹次郎 平田盛胤	
309		御製・御歌 歌御会始御預選歌集 論説 神秘的神事の復興を望む 戦後國民の覚悟 中橋文相は言葉則文語にして又口語たるべき新案の創作に廣心し、牧野參事官に勸業研究を委せしめつゝあり の回案に於て着手せざる長力過激に就て 神道家は社会政策を以てはなすべからず、政治家を教導して社会政策を実施すべき根本問題を提示する事が出来る、又富業を感化せしめて社会公共の爲めに尽さしむることが出来る、故に神道家は自らハハ問題を解釈することは不可能であるが、間接に之を解釈する道を講ずることは出来る 戦争開始の当初、我が藥木博士は今の戦争の爲め、思想の源泉不幸にして濁濁すべしと悲觀した、果然戦争以來、思想の源泉濁濁したものは独日本のみではなく、欧米に於ける思想も亦著しく濁濁しつゝあり着戦時中歐米に於て出版されつゝある書籍は、悉く低級なるアモクラシーを説いたもののみである 思想は歴史的産物である、思想の価値を判断する 國家として最も憂慮に堪へざるは、来る十月米國に於て開かるゝ國際労働會議の結果なり 人道と云ひ、平和主義と云ひ、只濁に之を口にするものはあれども、確たる教義を立てた道徳家なければ、宗教家もない文化の程度高脚きを証するものにあらざる、今や個人の豊饒漸く絶えて國家は蠻態度の中に彷徨す 日本の女子は元來綺麗を飾り、男子に対する肉体的犠牲者になるを以て、高級な婦人と看做し、働く婦人は卑賤なる女の如く知解して居る 支那國民は目前の利害に盲動して又前途を顧みず而も何れの方面よりも煽動され易く、又師の前に勢威を誇りて利息を逞し、弱者の前に跳ぎて只富愛情を貪るの國民性を有す 天下の事上に立つ役目の人間が下風に向つてアへのコウだのと干渉がましい差圖をするやうでは、下風に居る者が思ひ切つた活動はされぬ 私達も決して貴族と平民との間に差別を付けるやうな事は好まませぬが、人と人との間に於ける礼讓は社会秩序上絶対的のもので人として礼讓がなければ、禽獸と何等區別がありません 去二十三日眞の官邸に三教七八八派の代表者九十一名を招待し、宗教を通じて思想問題を整理すべく計画し、自己の所見の一端を彼等が平生の説教に反射せんことを希望せり 新古今集略解(つゞき) 文苑 故久保原都翁を誄 兼語和歌 五月十七日より一週間東京皇典研究所に於て開催せられたる全国神職會議に於て議決せられたる議案左の如し願して出席者は案に二百二十六名なりしと 地方官會議に於ける神社局長の指示事項は左の如し 静岡県田方郡菟山村は源朝公再興の地として有名なが今回同村有志者等は島津公爵の贊助を得て同地に朝朝神社を建設せんと協議中なりと 鉄道院の旅行案内に種々研究の結果敬神思想普及又は発揚に資すべき記事を掲げた『神話』と云ふ一項を新に加へられたり 阪谷男爵を会長とせる中央乃木会は赤坂区新坂町に乃木神社創設の認可を得たれば府社にすと云ふ説又別格官幣社にすと云ふ議論もありしが明治神宮の増社とたつた方が意味も深故府議の本意でもあらうと云ふことになりしと云ふ 白旗開戦に當り身代神官に勅使御奉進臨時御執行あらせられ國文稻穂の官御報告あらせられしが近(平和克復の)頃は天皇陛下御親しく御報告の御奉進御執行あらせらるゝと申す申して其の時期は本年秋の頃ならんと申す 東京殿下の御在所たる高輪東宮御所は御成年式も御終了の事なれば今後総ての間に於て御不便を感ぜさせらるゝより東宮御所御改築あらせらるべしと擇察し奉るとの趣なりと申す 我陸軍省にては今回飛行練習教授の爲め来朝の仏國飛行機特校一行に記念品として我が武士道の精華たる日本刀一振贈進する 六月四日午後七時遷去せられたり致遠大寺奉迎の御略解 福島県名目前神職總會に於て一町村に於て總社を定め諸種の報告祭及び國家の祭祀を此の神社に行ふことを協定し町村費の補助を受けることを町村長會議に建議せり 小倉郵便物料金左の如く改正四月十五日より実施せられたり 厚張全國高等小学校長會議に於て決議せられたる問題 陛下より故徳大正公に願はれたる諱詞は左の通りなりと申す 内務省官制改正は左の通り六月十一日發表せられたり 安全第一協會の内田嘉吉氏等四百余名の有志が計畫せる安全週間 麻田神社神祇擴張工事は敷地買収も一部を除き買収済となりたるを以て當局者は近く工事に着し一部の積聚地土に對しては止せず土地収用法を適用して事業の進捗を為すことなれりと云ふ 海部都督高野大官廟ノ上新嘗祭穀田御田儀式 東京殿下には六月十五日午前十一時御出門御茶の水教育博物館に開會中の災害防止展覽會に行啓	床次竹次郎 平田盛胤	
		御製・御歌 歌御会始御預選歌集 論説 神秘的神事の復興を望む 戦後國民の覚悟 中橋文相は言葉則文語にして又口語たるべき新案の創作に廣心し、牧野參事官に勸業研究を委せしめつゝあり の回案に於て着手せざる長力過激に就て 神道家は社会政策を以てはなすべからず、政治家を教導して社会政策を実施すべき根本問題を提示する事が出来る、又富業を感化せしめて社会公共の爲めに尽さしむることが出来る、故に神道家は自らハハ問題を解釈することは不可能であるが、間接に之を解釈する道を講ずることは出来る 戦争開始の当初、我が藥木博士は今の戦争の爲め、思想の源泉不幸にして濁濁すべしと悲觀した、果然戦争以來、思想の源泉濁濁したものは独日本のみではなく、欧米に於ける思想も亦著しく濁濁しつゝあり着戦時中歐米に於て出版されつゝある書籍は、悉く低級なるアモクラシーを説いたもののみである 思想は歴史的産物である、思想の価値を判断する 國家として最も憂慮に堪へざるは、来る十月米國に於て開かるゝ國際労働會議の結果なり 人道と云ひ、平和主義と云ひ、只濁に之を口にするものはあれども、確たる教義を立てた道徳家なければ、宗教家もない文化の程度高脚きを証するものにあらざる、今や個人の豊饒漸く絶えて國家は蠻態度の中に彷徨す 日本の女子は元來綺麗を飾り、男子に対する肉体的犠牲者になるを以て、高級な婦人と看做し、働く婦人は卑賤なる女の如く知解して居る 支那國民は目前の利害に盲動して又前途を顧みず而も何れの方面よりも煽動され易く、又師の前に勢威を誇りて利息を逞し、弱者の前に跳ぎて只富愛情を貪るの國民性を有す 天下の事上に立つ役目の人間が下風に向つてアへのコウだのと干渉がましい差圖をするやうでは、下風に居る者が思ひ切つた活動はされぬ 私達も決して貴族と平民との間に差別を付けるやうな事は好まませぬが、人と人との間に於ける礼讓は社会秩序上絶対的のもので人として礼讓がなければ、禽獸と何等區別がありません 去二十三日眞の官邸に三教七八八派の代表者九十一名を招待し、宗教を通じて思想問題を整理すべく計画し、自己の所見の一端を彼等が平生の説教に反射せんことを希望せり 新古今集略解(つゞき) 文苑 故久保原都翁を誄 兼語和歌 五月十七日より一週間東京皇典研究所に於て開催せられたる全国神職會議に於て議決せられたる議案左の如し願して出席者は案に二百二十六名なりしと 地方官會議に於ける神社局長の指示事項は左の如し 静岡県田方郡菟山村は源朝公再興の地として有名なが今回同村有志者等は島津公爵の贊助を得て同地に朝朝神社を建設せんと協議中なりと 鉄道院の旅行案内に種々研究の結果敬神思想普及又は発揚に資すべき記事を掲げた『神話』と云ふ一項を新に加へられたり 阪谷男爵を会長とせる中央乃木会は赤坂区新坂町に乃木神社創設の認可を得たれば府社にすと云ふ説又別格官幣社にすと云ふ議論もありしが明治神宮の増社とたつた方が意味も深故府議の本意でもあらうと云ふことになりしと云ふ 白旗開戦に當り身代神官に勅使御奉進臨時御執行あらせられ國文稻穂の官御報告あらせられしが近(平和克復の)頃は天皇陛下御親しく御報告の御奉進御執行あらせらるゝと申す申して其の時期は本年秋の頃ならんと申す 東京殿下の御在所たる高輪東宮御所は御成年式も御終了の事なれば今後総ての間に於て御不便を感ぜさせらるゝより東宮御所御改築あらせらるべしと擇察し奉るとの趣なりと申す 我陸軍省にては今回飛行練習教授の爲め来朝の仏國飛行機特校一行に記念品として我が武士道の精華たる日本刀一振贈進する 六月四日午後七時遷去せられたり致遠大寺奉迎の御略解 福島県名目前神職總會に於て一町村に於て總社を定め諸種の報告祭及び國家の祭祀を此の神社に行ふことを協定し町村費の補助を受けることを町村長會議に建議せり 小倉郵便物料金左の如く改正四月十五日より実施せられたり 厚張全國高等小学校長會議に於て決議せられたる問題 陛下より故徳大正公に願はれたる諱詞は左の通りなりと申す 内務省官制改正は左の通り六月十一日發表せられたり 安全第一協會の内田嘉吉氏等四百余名の有志が計畫せる安全週間 麻田神社神祇擴張工事は敷地買収も一部を除き買収済となりたるを以て當局者は近く工事に着し一部の積聚地土に對しては止せず土地収用法を適用して事業の進捗を為すことなれりと云ふ 海部都督高野大官廟ノ上新嘗祭穀田御田儀式 東京殿下には六月十五日午前十一時御出門御茶の水教育博物館に開會中の災害防止展覽會に行啓	床次竹次郎 平田盛胤	

		<p>秋田県教育会は精神的に敬神の實を挙げて各種学校教員全部県立高神社(平田、佐藤二人を記す)の崇敬者となり毎年教育会懇会の時に祭典を行ひ教員全部参列する又師範学校卒業式当日卒業生を行ひ教員全部参列する又師範学校卒業式当日卒業生を此の神社に参拝せしめ神前にて学校長が訓戒を與へる例になつて居り又更に神宮奉斎殿へも参拝せしめ皇祖の大前にて皇室國家に参拝すべき事を望むと云ふ何所の教育会の綱領も敬神思想養成の事を第一項に掲げ立派に出来たるも教員自身が神社の前を通過する際階級もせず拝礼もせず敬神の實を行はずして教壇に立つ時のみ敬神兼祖を生徒に教ふるも効の奉らぬは当然なりとす</p> <p>土屋光金中将は九月新学期から帝大法科政治科に入学して三年で卒業出来ずば五年でも七年でも研究すると云つて居られ</p> <p>五月十日丹羽郡長は郡内神職全部を郡衙に召集して左の事項を指示して懇話会訓諭せられたりと</p>		
		<p>八名郡神職会は左の事項を協定し之を実行しつゝありと云ふ</p>	<p>一神職に於ては爾來國民に國家觀念を養成する為め奉仕神社に於て毎月月次会の前後立國の大義並に神徳の講演を為す事</p> <p>教育会、青年会、在郷軍人会其他各種の会合ある場合には出席し講演指導を為すこと</p> <p>一時機を見て小学校と連絡を取り学校又は神社に於て立國の大義を解き國家觀念の啓蒙に努むること</p> <p>郡内各神社を中心として組織する婦人会の日時を定め神職会員出席し婦人に敬神の大義を講演し及祈善心を養成すること</p> <p>神職会員は各自受ける奉給百分の五を規約貯蓄として本会に就て貯蓄すること</p> <p>一史蹟名勝天然紀念物保護に関する件</p> <p>一神職養成に関する件</p> <p>一神社有財産及会計監督に関する件</p> <p>一神社行政に関する件</p>	
		<p>渥美郡長は郡議會を開き左記の訓示事項を定めたり</p>		
	各都市通信	<p>丹羽郡子代代金(丹羽郡書記岩田報)</p> <p>碧海郡神職会の計画</p> <p>八名郡神職会々則</p> <p>海部郡子代代金(海部郡神職会報)</p>		
	教員及辞令	<p>新任及辞令</p>		
311	論説	<p>御製・御歌</p> <p>歌御会始御願預選歌集</p> <p>神職は高尚なる氣分を要する</p> <p>招先奉拝の難点に就て</p> <p>相互主義</p> <p>何ぞ寥々たる</p> <p>神社と森林</p>	<p>照本寛</p> <p>玉光女</p> <p>神の道</p> <p>秋山寛夫</p>	
	説園	<p>神とは</p> <p>只忠君愛國の爲と奮闘努力すれば疑なく、人生の本務を尽し得ると心得て活動する、外には別々の仔細はなし</p> <p>神ながら言華せぬ國とは日本國の又の名である</p> <p>昔時は公然両刀を手挟んで一身一國を守護したりしが、今日は表面平和を装ふ、而も様に剣を擬しビートルを蔵して他に備へ、機を狙ふものにして今や世界各國國民の心理を洞察せんが爲めには、極めて周到なる注意と犀利なる眼孔とを必要とするに非ざり</p> <p>古往今來一代の文豪者天才と言はれる様な人物で、虚廟な体質を持つて居た者は幾多多い</p> <p>今や歐洲の戦亂も熾み平和の時代に入り、我國の將來も更に愈々多事ならんとするの故である</p> <p>日本は歐米と国情を異にして居るが、故に労働問題労働者の生活問題を解決するよりも、國家中堅たる知識階級の生活問題を解決するが一層急務である</p> <p>神職は高尚なる氣分を要する想を練り学を研ぐことを怠る者に非ざれども如何せん</p> <p>軍人は戦をする者だから、戦に関する學問さへしてあればいい、世の中に通じ世間慣れた人間を作る必要はない、併し乍ら軍人の仕事にも地方勤め者も、地方官民と直接々触れて居る故に、軍人としての職務を全うするには、軍事以外の知識に通じて居る方が便利でないとは言へぬ</p> <p>現代の社會は道徳的觀念を失ふて金銭利欲の醜態に囚はれたり</p> <p>伊勢神宮皇學館長後任に決定せりと云ふ上田萬年博士は、同館評議員たる關係上同館に対する抱負を談つて曰く</p> <p>神職の冷淡は神職の素質を劣等ならしむる傾向を招くは相當の頭腦のある人材が之に熱心を持します、他の方面に差つて了るからである</p> <p>天下は誰り持ちたよ、今日吾人でなければ人間でない様に願つて居るが、其の歐洲人も華僑も神職たるも耳聾人、聾人の支配下に呻吟した過去もあれば、印度、支那の如き國々も擾亂たる歴史を有つて居るのである</p> <p>勳王家山田大將親彦翁が文久三年五月幕府の手に捕へられ幽囚の身となり、無実の罪を蒙り、徒に獄裡に在るを涙とせず</p> <p>顔の頭も儘心から</p> <p>「君が代」の作謄者に就いて</p>		
	雑録	<p>新古今和歌集略解</p>		岡村親彦
	解説	<p>新古今和歌集略解</p>		
	文苑	<p>現代漢學の森田三島中洲博士の關係</p> <p>波多敷吉相は皇后陛下手づから御親筆の御歌を賜り家族一同恩賜の尋なきを奉獻せり</p> <p>仏教各宗布教者は民力消費の五大要項普及伝道方法協議の爲め六月九日より三週間芝芝真間に会合</p> <p>四十余年間一日の如く恪勤精勵先帝陛下に奉仕して忠節を盡し模範的侍臣と稱せられたる徳大寺實則公は發骨を讀ひて後は平野ヶ谷の閑地に風月を友として余生を楽まれつゝありしが六月四日午後七時八十二際の高齡を以て眠るが如く薨去</p> <p>平野次郎國臣評世の歌</p> <p>明治天皇御治世四十五年間の御製</p> <p>規律と節制とに馴れたる独逸は必ずや何等か奇想天外的方法を以て国力の恢復を図るべし</p> <p>三重県農産部倉村大字東宮にては河村瑞軒記念除穢儀式を行へり</p> <p>伊勢神宮へ戦祈禱を■めたる町村の代表者凱旋軍人在郷軍人會員尚武會員其の他一般平和祝賀の一日を選び神都に集るもの非常に多く参宮者充滿せりと</p> <p>代々木練兵場に於ける平和記念大觀兵式は七月一日午前八時三十分各團駐在武官参列莊嚴に御奉行相成たり隨隊を差許された内閣諸公陸海軍將校同家族在郷軍人同家族學習院生徒其他の学校生徒公共団体役員等無慮五万人の多き拝観者にて練兵場は人を以て滿たさる</p>		
312	講演	<p>御製・御歌</p> <p>歌御会始御願預選歌集</p> <p>神社参拝の真意徹底に努力すべし</p> <p>支那旅行談</p> <p>神道と国民道徳</p> <p>其の文壇</p>	<p>萩野由之</p> <p>昌氏氏</p>	
	説園	<p>今日我が敬神思想の上に幾多の研究不十分なる点があつて、之が動もすれば不謹慎なる言論を醸す原因となるものである</p> <p>曾て官尊民卑の聲塵なりし当時、人民の官吏を遠する甚だ薄かりしにも拘らず、吏僚は自ら高しとして取て錢を求め、若くは空腹を觀ふるの醜を学ばざり</p> <p>思想的に依つて神道の大真理を宗教的に哲學的に科学的に探究して之を天下に発表することは、例へば現代の俗社會に容れられずとも、其の齟らす所の光明は思想界に永遠に輝き渡る</p> <p>俗業ある人の言行は一見平凡である</p> <p>諸種の思想は我が國民精神に影響して、動もすれば其の基礎を動揺せしめんとして居る。此の時に當り我が國民は抑も如何の覚悟を以て其の基礎を養ふべきか、之は我が國民が最も慎重に考へねばならぬ事である</p> <p>惟ふに独逸が從來大に成功したのは、第一過去百年間如何なる苦境にも希望を失はず、只管努力養成に努めた事、第二他に依頼せず、自己に信頼して精神的にも物質的にも自強して發達を為し遂げたる事によるのである</p> <p>神道に於ては我祖同種同族であるから突に奇妙な次第である。由来産業は我祖に伝承してより神道用として作られたる者も見ないから、余(仏教)産業を神道産業に利用して居る訳である斯様な不自由な真似をせずとも、我神道には立派に古来より莊嚴優麗は音楽が存在して居る</p> <p>米國のポーニー博士が自由思想の發展に三時期を區別した</p> <p>昔から折れくずれと申して居る。病氣になつた時は神様に御祈りして平癒を頼め、併し神様に御祈したのみでは直らぬ、自分は自分として薬を求め、出来るだけの療治をせよと教へられ居る</p>		
	解説	<p>新古今和歌集略解(つゞき)</p>		
	文苑	<p>三十一代和歌集について(續)</p> <p>平和祈禱奉告祭文(日清戦後)</p> <p>飲酒談</p> <p>和歌</p>	<p>藤原経</p> <p>内海辰司</p> <p>葉良氏</p>	
		<p>八月廿九日齋藤朝野總督水野總監は夫人帯同にて鹿島立の前伊勢神宮へ正式参拝せられたり</p> <p>講和特使西園候は八月廿七日天皇陛下に拝謁仰付られ講和会議の経過に關し伏奉せられたるが陛下には御嘉賞ましまして是れも左の優詔を賜はりたりと申す</p> <p>空中射撃班は寒戰の難處に依り此難處を解決した仏國では優良の射手を得んが爲め一人に十萬發の彈を與ふる又優詔を授けるは其飛行機を同じ高さに同じ速力にして常に真直ぐに保つて飛行すると云ふことが絶對の難事である不同があれば強運は命合せぬ云々</p> <p>朝鮮總督一行は九月二日午後五時京城南大門に到着</p> <p>九月六日臨時神宮祭主大勲位多嘉王殿下には神宮祭主に御昇任あらせられたりと申す</p>		

316		御製・御歌			
		歌御会始勅願精選歌集			
		新年を迎ふ			
	講演	神道と国民道徳に就て(掲載)		百理堂三郎	
		探道に就て(掲載)		大原重明	
	説園	探道など云ふこと			
		国民の思想			
		吾国の婦人			
	雑録	今回県農会副会長堀尾茂助氏宛起して安城農学校校長山崎延吉氏が、多年農業に貢献した功勞に酬みん為謝恩会なるものを組織して自願有志者の参集を催し、第一回協議会を開けりと言ふ			
		碧海郡神職会は今回左記の事項を決議し実行に着手せりと云ふ			
		官幣幣社神職に対し七割以内の手当を支給することし財源は予備金の積立額を減らして充てんとす			
		抑も山東問題とは何ぞや我園人は悉く其の内容を明せるも議論の順序として之を略述せん			
		徴兵猶予規定			
	龍騎	新古今集略解(続)			
	文苑	人嘗奉告祭祝詞案		小林十太郎	
	故臨時宮内省主官陽宮邦憲王第一王子賀陽宮恒憲殿下には満二十歳に達せらるゝを以て御成年式規定に基き賀所大前に於て行はせらるゝを御都合により三月御遊幸行儀をなすべしと申す				
	海軍神道會改築奉告書案第一宮村鎮座國幣小社砥鹿神社にしては本宮山の上の奥宮改築を計画し既に奉賛會を組織して善く會員を募集申なりしが今回皇室林野管理局より御用材払下の許可を得たれば去る十二月十七日日本宮山に於て改築奉告及び山入の祭典を厳肅に執行し引續き伐木に着手せり				
	陸軍大將大尉功二級閑院宮載仁親王殿下には十二月十二日午前十時御参内天皇陛下より元帥称号を受けさせられ次いで元帥徽章並に元帥刀御親授あらせられたりと申す				
	十二月十五日午後四時三十分より宮中賀所大前に於て御神樂の儀行はせられ天皇皇太后陛下には御親拝あらせられ各皇族殿下を始め奉り大祿位各國務大臣以下拝禮あり六時より雅楽部員出仕御神樂を奉せりと申す				
	新愛知県理事官重信文敬氏は十二月十四日午後零時半名古屋列車にて着仕直ちに熱田神宮へ参拝せられたる上夫々諸官庁等に挨拶せられたりと				
	愛知県人にして皇典講究所より学歴を授けられたる者				
	大正八年十二月十二日通常協議会開會席上に於て大正九年全國神職會及五縣連合神職會に出席すべき代表者選出郡市の抽籤を行はるゝに左の如し				
	一月廿六日より四日間皇典講究所に於て大正九年度全國神職會臨時總會を開くと云ふ				
業報	文部省に於ては多年の懸案たる宗教法の制定に努力しつゝありと一日も其の速ならんことを望む				
	愛知県にても神職の俸給其他給与規程外三四件の改正をなす意向あるものと如しと聞く				
	客臘十二月十一日に招集せられたる本会協議員は二日に涉り審議談合したるが議員諸君の希望等多々ある中に雜誌の改革発展に於ては多数者の賛成あり				
	而して各郡市通信を掲載せられたしと編輯子或は言はん議員諸君願くは佛郡の上詳細にして且つ有益なる通信の投稿に全力を注がれし機関雜誌の本報を發揮するに由なからしむものは各郡市神職會にあらざるなきか然かも恬然として主張する処流石は議員なり				
	本会に於ては今度皇下各官國幣幣社司を本会發動員に推薦せられたりと				
	國幣中社真清田神社司中村彈男氏は今度本県皇典講究所試験委員に推挙せらるゝといふ				
	客年十二月十一日開催せられたる通常協議員會に於ては時勢の進運に順応すべく神職養成部の改築及皇郡市神職會の運営方法等につき審議せりと				
	神職優遇方につきは本県より廣々郡市長へ通牒ありたるが今般本会長よりも本性につき精に引頭の如き依頼状を呈せり				
	神職優遇問題の声漸く大ならんとするの時郡市神職又は神職希望者中には暗中飛躍を試みて神職候補推薦方につき競争するものありと競争必ずしも悪しきにあらず只是れが為遂に俸給支給の助行を阻害するのみならず相共に倒るゝの悲惨事を慮すに至るべきを憂ふ				
	神職優遇に関する依頼状案				
辞令	石ノ浦現任セラル				
附録	大正九年年度收支算書				
	大正七年度收支算書				
317		御製・御歌			
		歌御会始勅願精選歌集			
		詠勅			
	論説及講演	神職の地位向上と使命			
		天然記念物の保存に就て(掲載)		三好宇	
		社会問題の悪化(掲載)		熊本金川	
		不良少年と家庭とは如何なる関係を持つてあるかに就いて少く語つて見たいと			
	説園	戦争の影響たる極めて深刻物質方面よりすれば食糧問題あり、労働問題あり、精神方面よりすれば思想問題あり			
		我國の人口			
		人間の價値は低い			
		改造すべき細目は一にして足らず			
	文苑	社会の人心			
	雑録	土方伯一周年祭歌詠			
		出羽の羽織			
		巖に國母陛下より東京慈惠病院濟生會福田赤十字病院等へ夫々患者の爲め服地と裁縫科御下賜の御恩に浴したれば三田四國町なる戸板裁縫女学校に於て各生徒に一着宛縫製せしめ病院にては正月の晴着に患者一同へ頒ち与へたりと申す			
	伊勢神宮別館は山田士に創建し後姫命を奉祀すべく継続事業四十万円を以て工事を終すことに決定し内務省は大正九年年度の予算に九万円計上せりと				
	皇族殿下御成歳に達せらるゝ時は貴族院議員の議席を占めらるゝ例なるが朝鮮玉族殿下に對しては未だ何等の規定なきを以て目下王家規程制定中なりと				
業報	官幣幣社神職にして十五年以上奉任又は奉任待遇以上となれる者は現在五十名ありといふ又府県以下神社々々社掌中の奉任待遇に就ては有資格者より地方庁之を發給し内務大臣に内申の上任命せらるゝと				
	一月四日御政事始式は例年の如く先づ宮内大臣より神宮の祭祀につき上奏せるが其の上奏文は左の如しと申す				
	一月十七日午前十時宮中鳳凰の間に於て新年歌御会始の儀を行はせられ				
	一月五日宮中新年御宴會に召せらるゝ有資格者増加し御殿手数に付き本年より意欲官一等以下御遊幸連半數の交五に召せ給ふこととなり				
	津島神社屋敷の件につき客臘十九日多田津島町長及堀田社事は相携て上京し内務當局其他諸士等に面談し大に陳述せる処ありたりと				
	伊勢神宮皇日祭奉仕の模様				
	客臘廿六日吾が皇典講究所長たりし芳川頭正伯露去せられたり				
	今回預選の光榮に浴したる知多郡大府町相木賢三氏は御歌所寄人大口綱二井上通泰両先生と師として多年研究されたる歌人なりと又岐阜県土岐郡笠原村加藤明君は未だ九歳の小童にして全くは父の習作せしなりと				
	南洋諸島は民政を布かるゝに付土民教化の爲日本基督教宣教師を派遣することとなり政府は其人選中なりと				
	賢き臣にては世界恒久の平和確立せられたるに付き連合列國と共に其の御喜びを頌たせ給ふべく皇族中より平和使節を連合國皇帝及び政府に向け御派遣あらせらるゝ御内定				
	丹羽神職會は一月十日郡役所議事室に於て月次會を開き神祭を行ひ終て新年宴會を催したりと				
各郡市通信	海部郡神職會は一月十日郡會議事室に於て例會を開き神功勞者表彰式を行ひ新年の祝賀を催せりと				
	各々に於ては存記日單を以て神社の会計検査を施行せられたり				
	告示第二十八号	左記神社神職常備料供進神社二指定セラル			
	告示第二十九号	左記神社社会二間ノ規定ヲ適用スルニキ神社二指定セラル			
	内務省令第二十七号	史蹟名勝天然記念物保存法施行規則			
	神職/優遇				
	叙任辞令				
318	大正9年3月10日	御製・御歌			
		歌御会始勅願精選歌集			
		府県以下神職常備料増額を望む			
	学説	すみ川			池野英介
		土佐日記の附注			
	雑録	私言漫言			
	断片集	此頃朝鮮人の口から純日本主義と云ふ主張が盛になつたのは注目し得る物備騰貴に苦しむ生活難の声			
		十年後には米が千六百余石要が千余石不足する			
		海外移民さへすれば我國は永遠食糧問題に困る事懸念はないと主張する論者			
		全國各宗の重立つた僧侶等發起して株式会社仏教伝道社を組織			
		夏日東京に於て開かれたる全國神職會臨時會議			
		折年祭幣帛神饌料			
		李王子世子御婚儀			
		議院地鎮祭			
		虎眼予防法施行細則			
	泉道確定				

	文苑	和歌			
	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信
	319	本会記事	本会記事	本会記事	本会記事
	320	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信
	321	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信

文苑	和歌				
各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信
319	本会記事	本会記事	本会記事	本会記事	本会記事
320	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信
321	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信	各都市通信

		歳日祭に奉仕して		小林太十郎
		元日の所感		松浦此太郎
		明治神宮参拝所感		中野知佳
		原首相の年頭所感		
		原中元		
		二日祭の御儀		
		元始祭		
		伊勢神宮歳日祭		
		熱田神宮講宮		
		眞清田神社の年始		
		津島神社の年始		
		尾張大國霊神社の年始		
		伊勢神宮御造替	御造替総経費 工事完成期 祭式及準備	
		尾崎殉難者義捐金建碑寄附金		
		今年の月次歌題		
		車典講究所愛知分所試験委員		
		加藤直久氏		
		海軍志願兵の将来		
		理事会開催		
		青年救済講習会奉告祭		
		丹羽郡青年会幹部講習会委員会式祝詞		
		御神田水品拜会		
		神事と時間旅行		
		オトキ運動会		
		神職懇談会		
		神職会表彰		
		叙任及許令		
323号	大正10年	啓示		川口彦治
		式辞		野田重磨
		祝辞		大島多重之助
		訓示		山田準一郎
		祝辞		川口彦治
		祝辞		一木喜徳郎
		祝辞		小橋一太
		五県連合神職会議案		
		五分間演説		
		五分間演説総評		
		名古屋神社の拝観		
		来賓と会員		
		繪葉書其他の寄贈		
		香贈金		
		勲績者及献納者表彰		
		表彰者都市別表		
		懇親会		
		五県連合神職会規約		
		我々の歴史と理想とに就きて		
		総裁推薦報告		井上哲次郎
325号	大正10年	愛知国学院校舎建設寄附金募集要書		
		愛知国学院の設置を祝して		中村強男
		内務省神職講習会講習員の覚悟と其の活用		中村周次郎
		内務省主催講習会概況		柴田龍正
		所感		加藤生
		採茶		青穂
		現海郡神職会月次研究和歌		
		御神木の木管川御下り		
		丹羽郡大山町の状況		丹羽郡神職会
		海部郡に於ける状況		
		中島郡奥町の状況		
		名古屋市に於ける状況		
		軍太子殿下の伊勢神宮御参拝		
		軍太子殿下御渡御祈願祭		
		現海郡神職会		
		寶鏡郡各町村長は神職会と協議し、郡内全神社(無各社共)へ常額料を貸し、祈願文を奉じ御渡御の平安を祈りたるが青年会員、在郷軍人会員、学校児童等参拝せり。		
		東加茂郡神職会		
		南設楽郡神職会		
		軍太子殿下御下流海陸御安全祈願祝詞		
		五県連合神職会打合せ		
		神職養成部卒業式		
		愛知国学院講習所		
		愛知国学院入学式		
		実行委員会開催		
		内務省主催神職講習会		
		代議員会		
		軍信副会長送別会		
		大正十年度収支予算		
		大正十年度特別会計		
		大正八年度収支決算書		
		現海郡神職会		
		現海郡神職会		
		皇道講演会		
		卒業報告祭		
		明治神宮参拝		
		丹羽郡通信		
		現海郡通信		
		八名郡通信		
		大谷基金		
		現海郡神職会予算		
		祭服調整費支給		
		愛知郡神職会		
		八名郡神職会大正十年度経費収支予算		
		神社一万円基本財産蓄積申合規約		
		現海郡神職会		
		現海郡神職会開催		
		氏子総代会開催		
		感謝状贈呈		
		明治神宮御鎮座祭記念事業		
		君を送る日		
		温故資料(第十二)		村木鶴治郎
		大正十年十一月告示第一二二号同第一一三号ヲ以テ左ノ通り神額幣料及会前指定神社ト定メラレタリ		
		神社昇格御社補頭社ハ大正十年三月二十六日告示第一五四号ヲ以テ左記ノ通り昇格セリ		
		鈴木信比古氏逝去奥社那古野社々司官察招魂社神官にして多年斯道の為め尽瘁せられたる同氏は四月十八日逝去せられ同月二十一日自宅出棺八事神葬墓地に埋葬せりと		
327号	大正12年6月1日	謹感敬謝		上田萬年
		摂政宮殿下と見己心		堀内文太郎
		フラスコチ一岡		田中義一
		現海半島は古の文化		山内敏行
		歌つと		村上義繁
		昇格神社の由緒		
		代議員開催		
		大正十二年度愛知県神職会収支予算書		
		大正十二年度特別会計愛知国学院収支予算書		
		大正十年度愛知県神職会収支決算書		
		大正十年度特別会計愛知国学院収支決算書		
		愛知国学院卒業式		
		愛知国学院入学試験		
		愛知国学院校舎新築		
		愛知国学院校舎建設費寄附金		
		司業試験		
		講習会開催		
		講師囑託第七回総会に於て各都市に講師設置の件協議決定の如今回式記氏名を本会講師として囑託せり		
		講師打合せ		
		現海郡神職会		
		現海郡神職会		
		昇格神社		
		史蹟名勝天然記念物指定		
		国宝指定		
		府県社以下神社ノ神額幣料供進ニ関スル件中改正ノ件		
		本会書記更迭		

		同窓会記事同窓会設立打合せ	同窓会設立打合せ			
328号	大正13年1月1日	叙任辞令	叙任辞令 證書 新所御告文 皇宮御告文 神祇御告文 内閣告諭 関東大震災 関東地方震災遺難死亡者慰霊祭 三殿下拝詞 関東大震災死亡者慰霊祭詞 吊詞 関東地方震災死亡者氏名 臨時代議員会開催 罹災同僚神職救済義捐金 各県神職会謝状 罹災者救助 罹災者救助古着古本具/他目録 慰霊祭録収支決算報告 救世江口宗義氏安返 震災と外圍の同情 帝都復興議案官制 帝都復興院官制 大震災に発布された諸法令 首相並に内相に建議 漢語			震災記念号
330号	大正13年8月10日	叙任辞令	叙任辞令 国民精神作興に関する詔書原義		宮地直一 安岡正篤	
		講演	国史の特性 天皇と閣内大臣			
		雑報	愛知県神職会第九回総会開催 副総裁推薦報告 愛知県神職会総裁訓示 式辞 大正十一年度愛知県神職会収支決算書 大正十一年度特別会計愛知県収支決算書 大正十三年度愛知県神職会収支予算書 大正十三年度特別会計愛知県学院収支予算書 大正十二年度代議員会議事録 学院司業試験並二祝詞祭式検定試験 学院一等司業受験問題 学院二等司業受験問題 祝詞から祝意へ 夏期講習会 昇格神社 額田郡神職会懇談会順序 皇典講究所改選 小橋会長兼任 全国神職会通達会 中部五県連合神職会 奉告祭祝詞 国幣中社大縣神社より参裡に付いて 宇田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式次第 森田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式祝詞 国学院入学試験 国学院卒業式並二同窓会 漢語 答辞			
		各地通信	額田郡神職会懇談会順序 皇典講究所改選 小橋会長兼任 全国神職会通達会 中部五県連合神職会 奉告祭祝詞			
		国学院記事	国幣中社大縣神社より参裡に付いて 宇田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式次第 森田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式祝詞 国学院入学試験 国学院卒業式並二同窓会 漢語 答辞			
331号	大正13年10月27日	叙任辞令	叙任辞令		野田晋蔵	
		巻頭	国民精神作興詔書 謹詠			
		訓令	額田郡神職会二階スル内閣訓令 神宮神職/額田郡神職ノ件ニ關シ依命議議			
		論説	航海學説		市川建堂 市川建堂	
		寄書	相譚考 県内昇格神社 指定特別寄附 斯界片々 神祇院問題の其後 関東地方大震災遺難死亡者吊慰一週祭 名古屋市神職会関東震災死亡者一週年慰霊祭 三殿下拝詞 慰霊祭詞 祭文 吊詞 弔詞 震災死亡者一週年慰霊祭式次第			
		各地通信	知多郡神職会にては容月十六日より十八日迄三日間八幡村第二尋常小学校に於て左記の通り夏期講習会を開催した。 寶條郡神職会は一郡一郡連合にて国学院大学講師青戸浪江氏を招聘し八月二十三日より五日間郡御連南郡小学校に於て祭式作業講習会を開催し由名古屋神職会では八月十八日から二十四日迄一週間の予定で雑祭式の講習を愛知県学院に於て開催した因に講師は平岡好文氏である。 丹羽西春日井の両郡神職会にては今夏連合にて伊勢神宮皇学館教授鈴木福幸氏を招聘し講習会を開催した。			
		業報	碧海郡神職会主催にて郡内青年幹部講習会を開催し加藤陸軍少将野田神田宮司秋田健會(常司)等講師として招聘せられたり。 府県以下神社其他に對する各附者行員の件 国民精神作興講習會 愛知県学院記事敬神思想鼓吹夏期講演会終了 雑祭式統一講習會			
		文苑	和歌			
		叢報	愛知県学院同窓会規則			
332号	大正14年2月15日	叙任辞令	叙任辞令			
		巻頭言	大正十四年の新春を迎ふ			
		俚言	俚言			
		論説	巫祝の基調		芝田敏心 市川建堂	
		寄書	相譚考 大正十三年度本会事業概況報告 大正十三年度愛知県学院事業概況報告			
		雑録	和歌 本会役員更迭 学院試験問題 十牛の語 牛の古來といふ伝説 小橋会長挨拶要旨 全国神職協議会議事報告 全国神職会沿革史編纂に就て 全国神職会幹部総辞職 皇典講究所			
		勅令及省令	勅令第二八五号 勅令第二八六号 勅令第二八七号 勅令第二九二号 勅令第二九三号 勅令第二九四号 勅令第二九五号 内務省令第二八号 大正十三年八月以降ニ於ケル県内昇格神社ノ如シ			
		告示	内務省告示第七六六号			
		叙任辞令	叙任辞令			
336号	昭和2年6月25日	巻頭言	国民精神と史蹟の保存		足立取 土屋純一	
		講演	氏子の制度に就て 神社建築に就て 氏子総代会概況 神職会総会概況			
		時報	昭和元年度愛知県神職会事業報告 東海五県連合神職会概況 全国神職会評議会概況 総務部副総裁更迭 夏季講習会開催 祭式講習會			
		雑報	史蹟名勝天然記念物資料展覧会状況 古墳其他埋蔵物発見のときの取扱 慰霊祭 昇格神社			

		業報	愛知国学院卒業生小学校教員及学際検定成績 巡回講演会 寶飯の古城址 環形村の神前村会			
		任免辞令 文苑	文苑			
337号	昭和2年9月15日	講演	内親王殿下御降臨奉祝 氏子の制度に就て(承前) 香濃に依る県議員の総選挙 香濃の実施と選挙人の自覚 地方長官會議に於ける内務大臣の訓示要旨 宇務部長會議に於ける榎木内務大臣の訓示要旨		足立取 内藤金三	
		時報	神宮大庭並屠備布儀旨 神宮大庭並屠備の趣旨 臨時代議員会開催 神社制度調査会設立 夏季講習会概況 本会副会長及理事更迭 県社以下神社に於ける収支予算式に就て 神前結納のすゝめ附録談の紹介			新美鑑一
		雑報	氏子総代会 神社氏子並崇敬者総代会議事項 神社年度別一本紋装束講習会状況 熱田神宮増築拡張整理事業の概要 塚功奉告祭並に塚功式 神馬御奉進 昇格神社 神楽講習会状況			
		業報	寶飯の古城址(その五) 神職高等試験施行 学際検定試験執行 祝詞祭式検定 新嘗祭穀倉橋種式状況 内親王殿下御降臨奉告祭		生田小平次	
		任免辞令 文苑	任免辞令 文苑			
338号	昭和3年2月25日	講演	中村副総裁を語る 別宮副総裁を語る 神社建築に就て 官幣神社以下神社の管理者たる神職の社務引継順序に就て 官国幣社以下神社祭式改正 神宮大庭及屠備布式 神宮大庭及屠備布に関する件議 神宮大庭及屠備布規約参考事項 郡市神職会大庭及屠備布式 宇務司業並祝詞祭式検定試験 祭式講習会 典札会議 本会通堂代議員会 昭和三年度愛知県神職会収支予算書 大正十五年度愛知県神職会収支決算書 大正十五年度愛知国学院収支決算書		土屋純一 愛知県社寺係	
		時報	御大禮御期日発表 単女御降臨奉告祭 大正天皇御一十年祭の件通議 南政愛知神職会祭式講習会開催 八名郡神職氏子総代会 幡豆郡神職会の総会 事務研究会主催 愛知国学院武神祭執行 県社以下神社収支決算書社格別総論 県社以下神社収支決算書社格別平均総論 寶飯の古城址(その六) 昭和三年度神宮宇務館普通生徒募集要項 太曾川堤 小牧山 二子古墳 坂小川古墳			生田小平次
		史蹟名勝	小牧山 二子古墳 坂小川古墳			
		神社昇格	神社昇格 神樂常景料供進指定神社			
		叙任辞令 叙任辞令 叙任辞令 文苑	叙任辞令 叙任辞令 叙任辞令 文苑			
339号	昭和3年6月15日	養訓之辞	財団法人設立に就て			
		神社事務主任官 打合せ訓示	内務次官訓示			
		論説	神社局長訓示 思想的困難解決の根拠 諏訪田諸祭儀の祭神に就きて 本会財団法人設立許可 神職待遇二問三答 第十三回愛知県神職会総会 五原連合神職会総会 全国神職会総議員会 鈴木前内務大臣の遺著 武進長久折開祭 氏子並崇敬者総代会		一善生 生田小平次	
		時報	第十三回愛知県神職会総会 五原連合神職会総会 全国神職会総議員会 鈴木前内務大臣の遺著 武進長久折開祭 氏子並崇敬者総代会			
		雑報	北設楽郡 岡崎市 知多郡			
		業報	愛知国学院入学状況 宇務司業証及教員免許状授与式 講師及新任教師異動 御大典記念事業 学校神護田の設置 本会役員異動 寶飯の古城址(その七)		生田小平次	
		神社昇格	神社昇格 神樂常景料供進指定神社			
		任免辞令 養訓之辞	任免辞令 養訓之辞			
340号	昭和3年10月25日	講演	神宮大庭と屠に就て 神職の奉告に就て 宇務部長會議 望月内相訓示 代議員選出 代議員会状況 調査委員報告 郡市神職会長會議 取神婦人会組織 夏期講習会概況 御即位式と大嘗祭の趣旨 法令の改正 神樂常景料供進指定 神社ノ移転合併 御嘗祭 御大禮諸儀式御日取 第一日ノ地方謁宴 大正奉祝歌歌詞 御法部諸司 神社に於ける御大典記念事業に案する件 御大典記念事業 愛知県内に於ける神社と國家及特別保護建造物 寶飯の古城址(その八) 即位礼大嘗祭に関する通議	昭和3年5月29日内務省令第20号によりて大正2年4月内務省令第6号が改正	吉田茂	
		時報	郡市神職会長會議 取神婦人会組織 夏期講習会概況 御即位式と大嘗祭の趣旨			
		業報	法令の改正 神樂常景料供進指定 神社ノ移転合併 御嘗祭 御大禮諸儀式御日取 第一日ノ地方謁宴 大正奉祝歌歌詞 御法部諸司 神社に於ける御大典記念事業に案する件 御大典記念事業 愛知県内に於ける神社と國家及特別保護建造物 寶飯の古城址(その八) 即位礼大嘗祭に関する通議			生田小平次
		任免辞令 文苑	任免辞令 文苑			
341号	昭和4年2月25日	講演	御即位礼勅語 田中総理大臣奏上の奏詞 神國日本国民の大覚悟 鎌倉の研究 神社財産の登録手続に就て 教育に関する御沙汰と文部大臣の訓令 即位礼及大嘗祭祭記令 大嘗祭参向日割 全国神職会概況 本会代議員会 神宮大庭及屠備布式		矢野藤山 生田小平次 県社寺係	
		論説	鎌倉の研究 神社財産の登録手続に就て 教育に関する御沙汰と文部大臣の訓令			
		時報	即位礼及大嘗祭祭記令 大嘗祭参向日割 全国神職会概況 本会代議員会 神宮大庭及屠備布式			

		雑報	第二回氏子総代会 学院試験問題				
		兼報	御大典記念講演会 曙豆郡神職会定期総会の件 神職会講演会概況 御大典記念事業 昭和四年度神宮皇学館普通科入学便覧				
		神社昇格及指定	神社昇格及指定				
		任免辞令	任免辞令				
		文苑	文苑				
342号	昭和4年5月20日	巻頭言	過去一年を顧みて				
		論説	持統帝の三河行幸御幸に就きて 神社教育問題に關する露見 昭和三年度財団法人愛知県神職会事業報告組織の変更			生田小平次 水谷清	
		時報	理事会開会 調査委員会調査事項 愛知学院卒業式 愛知学院同窓会 愛知学院生徒入学の状況 本会施設事業と負担金の比較 民衆講話所総務課 小学校に於ける神宮大麻の状況				
		兼報	神社法の問答 御大典記念事業 特別保護建造物の指定 県社以下神社神職の資格調 孝子節婦風行者始表彰				
		神社昇格	神社昇格				
		任免辞令	任免辞令				
343号	昭和4年7月20日	文苑	文苑				
		講義	流鏑馬の神事 開宝保存法 神伝八雲等			神宮司庁 生田小平次 一色輝琴	
		時報	本会総会並愛知学院竣工奉告祭及竣工式の状況 故岡田忠行翁、松岡義男翁、鈴木信比古翁の慰霊祭執行の状況 本会恒例の慰霊祭 五原連合神職総会 全国神職会評議員会 宮司務会と社司共業談合会 本会会庫補助金下付 伊勢神宮御遷宮式諸祭典 氏子並崇敬者総代会 皇典講究所祭式講習科講習員募集 青年神職講習会 皇典講究所同学院大学主催講演会 麻呂殿講義				
		兼報	皇典講究所祭式講習科講習員募集 青年神職講習会 皇典講究所同学院大学主催講演会 麻呂殿講義				
		任免辞令	任免辞令				
344号	昭和4年11月10日	巻頭言	捲き巻頭言				
		講演	日本は神國 神社と考古学 安達内務大臣の訓示と指示 教化動員の要綱 愛知県教化動員計画要綱			浜口内閣総理大臣謹述 大場錦雄 文部省	
		時報	愛知県教化動員常務委員会決議事項 遷宮式訓令 神宮式年遷宮講演会 神宮遷宮奉祝連合会講演会 皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会	愛知県教化動員委員会副 愛知県教化動員委員会(会長・委員・顧問・幹事・書記)名簿			
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		任免辞令	任免辞令				
		文苑	文苑				
345号	昭和5年8月10日	講演	神祇講話 國府総社を論じて三河の総社に及ぶ 安達内務大臣の訓示と指示 全国神職会評議員会 宮司務会と社司共業談合会 第二回愛知県神職総会 本会代議員会 本会恒例の慰霊祭 本会副会長の更迭			河野省三 生田小平次	
		時報	國府総社を論じて三河の総社に及ぶ(承前) 安達内務大臣の訓示と指示 全国神職会評議員会 宮司務会と社司共業談合会 第二回愛知県神職総会 本会代議員会 本会恒例の慰霊祭 本会副会長の更迭	昭和五年度地方団体提出諸議案			
		兼報	本会恒例の慰霊祭 本会副会長の更迭				
		神社昇格及列格	神社昇格及列格				
		指定神社	指定原簿				
		雑録	神社事務査察の結果に就て			愛知県神社係	
		任免辞令	任免辞令				
346号	昭和5年12月10日	巻頭之辞	野田会長を慕る				
		講演	巻頭之辞 神祇講話(承前) 國家の宗祀 神職の使命 神社と日本精神			河野省三 田中義能 堀内文吉 河野省三 生田小平次 井田龍太郎 高松定久	
		論説	國府総社を論じて三河の総社に及ぶ(承前) 神社教育問題に關して 教育に關する勅諭御下賜 滿四十年に際して				
		時報	代議員選出 代議員会状況 郡市神職会委員会 夏期講習会概況 講演会 神宮大麻及階梯布式 第四回氏子総代会 知多郡氏子並崇敬者総代会 名古屋市神職会衣紋講習会状況 一市二郡連合夏期修業会概況 碧海郡青年幹部講習会の概況 学院試験執行				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
347号	昭和6年3月30日	巻頭之辞	祭儀之祝詞集(第一編)				
		講演	社頭の御 神社教育問題私見 持統の三方面 神の道 所感			森原芳樹 加藤玄智 村瀬要 高松定久 井田洋人	
		時報	本会代議員会 愛知学院状況 本会役員異動 南設楽郡第四回大麻頒布式及氏子総代会 北設楽郡神職手札懇談会 曙豆郡氏子総代会の状況 碧海郡神職会表彰式 南設楽郡作手村神社会状況				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		任免辞令	任免辞令				
		附録	祭儀之祝詞集(第一編)				
		兼報	皇典講究所同学院大学講演会 夏期講習会				
		神社昇格	神社昇格				

		任命辞令	任命辞令				
		附録	諸祭之祝詞集(第二編)	自治公共に関する諸祭之祝詞 学事に関する諸祭之祝詞 軍事に関する諸祭之祝詞			
348号	昭和6年7月5日	奏頭之辞	奏頭之辞				
		講演	神社对宗教問題私見(承前)			加藤玄智 倉地定	
		論説	神職の社会使命に就て 国体闡明の急務 惟神会設置に就て			井田鏡次郎 名倉正三郎	
		時報	内務大臣の訓示と指示 第三回愛知県神職会総会 中部五県連合神職会 全国神職会評議員会 官司該合会と社司社業該合会 愛知県神職会 愛知国学院卒業式 愛知国学院生徒入学の状況	昭和六年度地方団体提出議案			
		業報	文部省指定愛知県の史蹟名蹟天然記念物 三重県神職会主催神修養講習会を觀るの記 孔聖節規定 八名郡神社氏子総代会 宇野司業証及教員免許状授与 物故神職の慰霊祭 新嘗祭供御献物の件 専任及兼任講師異動 神社並家庭神拝詞及作法 皇典講究所学附試験問題			杉浦定之助	
		神社昇格	神社昇格				
		任命辞令	任命辞令				
		附録	諸祭之祝詞集(第三編)	軍事に関する諸祭之祝詞 産業其他生業に関する諸祭之祝詞 公私団体に関する諸祭之祝詞			
349号	昭和6年10月30日	奏頭之辞	奏頭之辞				
		講演	神社对宗教問題私見(承前)			加藤玄智 高松定久	
		論説	神の道(其二) 浜藤神社の社会的事業(一) 参宮團に参加して 城義彰所談			朱田部盛枝 大木博夫 中野周次郎	
		時報	元寇弘安の役六百五十年記念祭 八名郡氏子総代会 東三郡二郡連合神職講習会概況				
		業報	神社崇敬觀念の強化並崇敬者の維持若は増加に就て 御所に香坂本県知事を迎へて 文部省指定愛知県の史蹟名蹟天然記念物			天野直松	
		神社別格	神社別格				
		文苑	文苑				
		任命辞令	任命辞令				
		附録	諸祭之祝詞集(第四編)	公私団体に関する諸祭之祝詞 人事に関する諸祭之祝詞			
350号	昭和7年2月25日	奏頭之辞	奏頭之辞				特殊神事特集号
		特殊慣行神事	花の境(豊年祭) 一宮の桃花祭 津島の提灯祭 岩塚の御田祭(杵こさ祭) 尾張富士の石上祭 天下の奇観 泉の豊年祭 国府宮の禊祭(開運祭) 松橋神社の車祭其他の行事 猿投神社に於ける禊の事 北設楽郡の花祭	熱田神宮特殊神事 喜清田神社特殊神事 津島神社特殊神事 七所社特殊神事 尾張富士浅間神社特殊神事 田島神社特殊神事 尾張大國霊神社 神明社 猿投神社	泉田荒吉 小林木十郎 今澤昇 吉田盛清 村瀬要 大河原昌勝 松浦比太郎 平石五十次 近藤仙次郎 村松正夫 今澤昇 天野直松 高松定久 井田清臣		
		論説	現下の國情と國民の覚悟 伊良古大給言と敬神 神の道(承前) 指念の力				
		時報	本会代議員会 国威尊厳初詣祭 福宮大馬場布式 第五回氏子総代会 宇野司業并祝詞祭式検定試験施行				
		業報	寶飯郡の大庭屋敷布式及氏子崇敬者総代会 八名郡の大庭屋敷布式及第五回氏子総代会 岡崎市神職会の大庭屋敷布式其他 丹波郡神職会の大庭及屋敷布式其他の行事 北設楽郡神職会の神社該合会 本会副会長昇格				
		研究資料	寶飯の古城址(其の九)			生田小平次	
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	勳顯「鳴鶴齋」 昭和七年麻秋月次兼語 保存協会へ入会の御勧め				
		叙任辞令	叙任辞令				
		奏頭之辞	奏頭之辞				
351号	昭和7年7月20日	論説	神社存立の理由 神社法令の遵守に忠實なれ 浜藤神社の社会的事業(其二) 度津の渡に就いて			神山栄 河原清一 矢田部盛枝 生田小平次	
		特殊神事並慣行 行事	神戸の寝祭 七福神隨附八幡神社の山伏祭文 花の境神事			川澄才 生田小平次 山本浦三郎	
		時報	全国神職会評議員会 官司該合会と社司社業該合会 東海中部五県連合神職会総会 第四回愛知県神職会総会 物故神職の慰霊祭 支那事変戦病死者慰霊祭				
		業報	文部省指定愛知県の史蹟名蹟天然記念物 神社祭式講習会 県外神社視察状況 碧海郡神職会主催御神田品評会 寶飯郡神職会の神居に対する奉仕状況 愛知国学院入学其他の状況 祭式講習会 雅楽講習会			倉地宏	
		業報	本会神職其他篤行者表彰規定制定 愛知県神職歓迎会 神社の火災防止に就て				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		叙任辞令	叙任辞令				
		附録	雑祭式行事摘要	地鎮祭、上棟祭、結婚式、葬儀式、渡橋式、除幕式(附招魂祭)、田植式、初穂式			
352号	昭和7年10月20日	奏頭之辞	奏頭之辞				
		論説	神の道(承前) 國恥國辱 神職の向上に就て			高松定久 中島兵治郎 市川佐一郎	
		講演	祝詞式講義			佐伯有義 倉内倉吉	
		特殊慣行神事	山本内務大臣の訓示と指示 山本内務大臣の訓示並指示要旨				
		時報	本会代議員選出 本会代議員会状況 夏期講習会概況 出動軍人武運長久祈願祭執行 熱田神宮位殿地鎮祭 福宮郡神職会の講習会 市二郡聯合夏季講習会概況 青年幹部講習会 寶飯郡神職会の国威宣揚並在滞支軍人武運長久祈願祭 丹波郡神職会の講習				
		業報	全国神職会館完成 額田郡神社該完成 伊勢神宮神衣御料献納に就て 江木全国神職会長の逝去を悼む 暖火雨談				
		雜報	雜報			邊語子	

		神社昇格 文苑 叙任辞令	神社昇格 文苑 叙任辞令			
353号	昭和7年12月25日	巻頭之辞 論説 講演 特殊慣行神事 時報 業報 雑報 神社昇格 叙任辞令	巻頭之辞 神社本来の意義と其の機能 神道の 原理と信仰(一) 招福作文法講義 神社建築に就て 大山の三光祭 郡市神職会長会議 神宮大庭及層布式 第六回氏子総代会 熊田神宮成願講堂 八名郡大庭及層布式並氏子総代会 丹羽郡大庭及層布式並氏子総代会 学園試験執行 新年御願 吉川理事の訃 相森八幡社と氏子 愛知県民大会 対連盟愛知県民大会発起人挨拶 本会理事異動 氏子総代会審判 愛知国学院生徒の早学旅行 日常生活の心得草 厚張神名帳集録本の訂正増刷 昭和八年度 神宮皇学館普通科生徒募集要項		梅本寛一 青原博見 依伯有義 日比野安喜良 定盛建太郎	
354号	昭和8年3月15日	巻頭之辞 論説 特殊慣行神事 時報 業報 雑報 神社昇格 叙任辞令	巻頭之辞 神道の 原理と信仰(二) 社会浄化と神道 自力更生と敬神 那古野神社の車楽に就て 福豆郎のテンテコ祭 本会代議員会 福豆郎の慰霊祭並氏子総代会 北設楽郡の神職及主礼懇談会 自力更生に邁進せる補習学校生徒 仮臨神社敬神婦人会総会 自会会報 愛知国学院卒業生状況 折年祭供進参向 愛知県国防義会設立 対連盟愛知県民大会 神社功労者表彰 愛知国学院卒業式 聖典講究所主催講習会中止 名古屋地方招魂祭		吉原博見 倉地照雄 井田敏次郎 水野浅茅 名倉三郎	
355号	昭和8年6月20日	巻頭之辞 論説 特殊神事 時報 業報 雑報 文苑 叙任辞令	国際連盟離脱に際して急発された聖詔 内閣総理大臣の告諭 愛知県知事の訓令 神の道(承前) 心と物(自力更生は敬神聖生に他ならず) 祭を講ずるの途上に 大山祭 第五回愛知県神職会総会 物故神職の慰霊祭其他の状況 第八回全国神職会評議員会 滋州事変戦病死者慰霊祭 岡部中社其酒田神社本殿遷座祭 名古屋市の神職講習会 八名郡神職会の対峙運動 新豊神職会の同感五輪並出動軍人武漢長久折願祭 丹羽郡神職会主催戦死者慰霊祭 新嘗祭穀類播種式 海部郡農会の農神祭 国威宣揚折願祭並氏子総代会 東江小学校児童の巡行 愛知県人会開催 万葉講座開設予告		高松定久 豊国生 浅野桜魂生 倉地白旗	
356号	昭和8年9月15日	巻頭之辞 論説 説苑 講演 特殊神事 時報 業報 雑報 文苑 叙任辞令	巻頭之辞 正副総裁送迎之辞 神道管見 神道の存在に関する三観 非常時の意義と国民の覚悟 自力更生に対する所感 折年二十一日の社祭 万葉集に現れたる厚張三河の歌(其の一) 東三河に於ける御神事管見 東海中郡五里連合神職会総会 学務部長会議 調査委員会近況 郡市神職会長会議 夏期講習会概況 政府県神事事務主任者会議 日本神職会第四回講習会に参加して 国家指定の伊賀八幡宮 知多郡の児童入学奉告祭 国学院大学万葉講座 八名郡神職会の夏期講習会 岡崎市の神社参拝子供会 神宮大庭及層布七年度層布種類別員数表 豊橋市神職会主催夏期講習会 福豆郎の皇太子御日本精神講座 神宮大庭及層布式 三河一宮本宮山敬神座談の一夜 寶徳郡神職会員の西日本著名神社参拝記 顕彰状及殉難相伝牌伝達式 新嘗祭穀類播種式 神職百首の内 神職百首の内		鈴木義一 田澤嘉輔 天野直松 高崎正秀 生田小平次 砥鹿山人生 松浦此太郎	
357号	昭和8年12月20日	巻頭之辞 論説 講演 特殊神事 時報 業報 雑報 文苑 叙任辞令	「神ながらの道」の根本原理 神の道(承前) 神道と宗教 万葉集に現れたる厚張三河の歌(其二) 社会問題と神道 熊田神宮正月の特殊神事概観 神宮大庭及層布式 第七回氏子総代会 神宮大庭及層布式に關し本県よりの通達 滋州事変戦病死者慰霊祭 寶徳郡の大庭及層布式並氏子総代会 八名郡の大庭及層布式並氏子総代会 豊橋市の大庭及層布式並氏子総代会 丹羽郡の大庭及層布式並氏子総代会 瑞葉郡中部の大庭及層布式並氏子総代会 三河一宮本宮山敬神座談の一夜(其二) 熊田神宮講堂 新嘗祭穀類播種式 学園試験執行 祝詞祭式檢定試験 瑞丸祭穀類記録の跋 参宮の記 祝詞部上津具村郷社八幡神社参拝のすずめ 和歌 俳句		梅本寛一 高松定久 市川佐一郎 高崎正秀 鶴藤規太 高木好次 砥鹿山人生 天直生 川澄子	
358号	昭和9年3月15日	神社昇格 叙任辞令	神社昇格 叙任辞令	足助次郎重範公事蹟		

		<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 「神ながらの道」の根本原理(承前)</p> <p>講演 日本精神講座</p> <p>研究資料 尾張地方のイハワラに就いて</p> <p>時報 本会代議員会状況</p> <p>業報 瑞豆郡神職会の慰霊祭及氏子総代会 寶飯郡佐藤神社の敬神婦人会 額田郡神職会及岡崎市神職会連合主催の物故神職慰霊祭及氏子総代会 神社功労者表彰 県外神社視察状況 富山県</p> <p>雑報 愛知県の市区町村社主主任会議 三河一宮本宮山敬神座談の一夜(其の三) 知多郡成島町の敬神義談 津武中興六百年記念祭執行について</p> <p>文苑 和歌 漢詩</p> <p>任免辞令 任免辞令</p>	梅本喜一 河野省三 遠山正雄	
359号	昭和9年6月26日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神社と神祇(其の一)</p> <p>説苑 田江神社の宝物「聖像十哲」について</p> <p>講演 日本精神講座(承前)</p> <p>特殊神事 津島神社の春賑祭</p> <p>時報 山本内相の訓示と指示 東海中部五県連合神職会総会 第六回愛知県神職会総会 第九回全国神職会評議員会 宮司談話会 全国社司研究会大会 物故神職の慰霊祭其他の状況 神職優遇の勅令公布</p> <p>業報 国幣中社大縣神社殿設祭 寶飯郡の満州派遣並在満軍人武運長久折願祭 国幣中社大縣神社昇格十五周年記念祭並功奉祝祭 知多郡の氏子総代会</p> <p>文苑 和歌 俳句 漢詩</p> <p>神社昇格 神社昇格</p> <p>任免辞令 任免辞令</p>	生田小平次 渡邊松生 河野省三 国幣中社津島神社社務所	
360号	昭和9年10月15日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道</p> <p>説苑 田江神社の宝物「聖像十哲」について</p> <p>講演 敬神及軍人墓園に就きて</p> <p>講演 日本精神講座(承前)</p> <p>時報 万葉集に現れたる尾三地方の歌(その三)</p> <p>業報 郡市神職会長会議 本会代議員選出 本会代議員会状況 府県社以下公費供進制度確立 湖州事業戦病没者慰霊祭 神社祭式講習会 三河神職員連大会 知多郡の在営兵武運長久折願祭 北設楽郡の神前結婚式研究会 北設楽郡の武運長久折願祭 瑞豆郡の事務研究会 碧海郡の青年幹部講習会 寶飯郡の神社事務講習会 知多郡三和村の氏子代議員談話会 寶飯郡神職会の非東海対策 豊橋市八名郡連合神職講習会概況 丹羽郡神職会第一回座談会 碧海郡の神社祭式普及化 南設楽郡祭式伝習会 中島郡の在出動将兵武運長久折願祭</p> <p>文苑 漢詩 和歌・俳句</p> <p>神社昇格 神社昇格</p> <p>任免辞令 任免辞令</p> <p>附録 中国四国地方の神社参拝と名蹟史蹟視察の旅</p>	高松定久 津邊松生 生田小平次 河野省三 高崎正秀	
361号	昭和9年12月30日	<p>奉詔之辞 昭和九年を送る</p> <p>論説 副総裁と副会長を深り迎ふ</p> <p>講演 神道管見(其の二) 神道の発生と其の成立に就て</p> <p>研究資料 所感</p> <p>時報 神宮と国民の奉養について</p> <p>業報 万葉集に現れたる尾三地方の歌(その四)</p> <p>雑報 予章の追加及更生に就て</p> <p>文苑 郡市神職会長会議 神宮大庭及層飾布式 第八回県内神社氏子総代会 神宮大庭及層飾布に關し本県よりの講議 神宮大庭及層の備布状況 中国四国地方神社参拝同並名蹟古跡視察旅行 丹羽郡の大庭及層飾布式並氏子総代会 東加茂郡の大庭及層飾布式並氏子総代会 西加茂郡の大庭及層飾布式 豊橋市の大庭及層飾布式並氏子総代会 南設楽郡の大庭及層飾布式 名古屋市南区社社会創立総会 第二回全国神職会の講習会に出席して</p> <p>業報 日本精神講座第七回講習会状況</p> <p>雑報 新年動議 三河一宮本宮山敬神座談の一夜(其の四) 宇野司業検定試験旅行 祝詞祭式検定試験 三河一宮庶務神社主催神祇大講演会 愛知県國學院講師異動 神職備置</p> <p>文苑 漢詩 和歌 俳句</p> <p>供進指定神社 神領常置料供進指定神社</p> <p>任免辞令 任免辞令</p>	鈴木喜一 定磯天祐 阪本廣太郎 高崎正秀 新妻隆一	
362号	昭和10年3月15日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道(承前)</p> <p>説苑 神職と氏子崇敬者に就て</p> <p>講演 喝感隨想 「おまことば」の幽深味</p> <p>時報 日本精神「おまことば」の幽深味</p> <p>業報 本会代議員会状況 本会役員の変更 東春日井郡の在留将兵武運長久折願祭 神社功労者表彰 神社へ公費供進の件 宇野祭概況 三河一宮賞授与式 大縣神社の殿設祭と大縣賞授与式 神職の心得に就て</p> <p>雑報 国史奉勸 神社参拝旅行日記 愛知県國防義会に就て</p> <p>文苑 漢詩 和歌 俳句</p> <p>神社昇格 神社昇格</p> <p>任免辞令 任免辞令</p> <p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道(承前)</p> <p>説苑 業務神社の奉仕に就て</p> <p>講演 上代尾張の文化と神社に就て</p> <p>業報 地方長官會議に於ける各大臣の訓示 学務部長會議に於ける内相の訓示 第一回全国神職大会 第十回全国神職会評議員会</p>	高松定久 加藤生 安里生 梅本喜一	3頁から16頁にかけて欠落 17頁から始まる
363号	昭和10年7月3日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道(承前)</p> <p>説苑 業務神社の奉仕に就て</p> <p>講演 上代尾張の文化と神社に就て</p> <p>業報 地方長官會議に於ける各大臣の訓示 学務部長會議に於ける内相の訓示 第一回全国神職大会 第十回全国神職会評議員会</p>	高松定久 中川隼風 丹羽敏治	

		時報	東海中部五県連合神職大会 第七回愛知県神職会総会 富司懇談会 本会副総裁送迎の辞 社司社奉祝詞 愛知国学院各業者其他の状況 県外神社視察状況 額田郡の在道将兵武運長久祈願祭 額田郡の神社事務研究会 知多郡の氏子奉祝者総代会 名古屋市内に於ける大楠公殉節六百年記念事業 物故神職の合祀祭其他の状況 名古屋東照宮の園遊指定奉告祭 大楠公百年大祭奉祝会発表 新舞臺供御献酬田圃式奉告 岡崎市六所神社の園遊指定奉告祭				
		文苑	和歌 俳句				
		神社昇格	神社昇格				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
364号	昭和10年9月23日			論告	論告第二号		
		論説	「まつり」の本義と実生活 儒教の日本精神に及ぼせる影響 神宮機殿神社と神御衣祭に就て 神社の経営に就て			梅本寛一 澤邊松生 天野直松 中川誠風	
		説苑	公費供進の制と神職 供進金に就ての希望 戦死者の科擧に就て 神明の靈縁に就て			森岡政一 村松治三郎 鳳山生 杉山滋寛	
		時報	本会代議員会 郡市神職会長会議				
		象報	神宮大庭及階の頒布状況 渥美郡の神社事務研究会 渥美郡の武運長久祈願祭 神宮大庭及階昭和九年頒布種類別員数表 八名郡の在道将兵武運長久祈願祭 丹羽郡の在道将兵武運長久祈願祭 渥美講習会開催 岡崎市の武運長久祈願祭 額田郡の初会並進式 北設楽郡神職の雑祭式講習会 北設楽郡の花道将兵武運長久祈願祭 知多郡神職会役員会 知多郡の重期講習会 東三神職連合会主催夏期講習会 名古屋市内神職会の遺書祈願祭 碧海郡の青年幹部講習会 幡豆郡の青年幹部講習会 東春日井郡の神道講習会				
		雑報	御陵墓及神社参拝路記 郷社佐藤神社を中心とする社会的施設 青年幹部講習会を載るの記 郷土の神社 郷土の神社 碧海郡神職会要学補助会規定 社会教育教化団体代表者協議会 全三河の月道大会 渥美重慶戦死者慰霊祭 明治神宮献詠会規則			石原淳一 生田小平次 杉浦定之助 小笠原正巳 藤江由雄	
		文苑	漢詩 和歌 俳句				
		供進指定神社	供進指定神社				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
365号	昭和10年12月23日			国体明徴ニ関スル声明 神社と神職(其の三) 水戸字久留米の初宮真木保臣 室の徳性に就いて 本邦結業の祖神を祀る天竹社 神宮機殿神社と神御衣祭に就て(承前) 神徳宣揚講演法について 神社の経営に就て基本財産蓄積(其二) 神明の靈縁に就て			生田小平次 澤邊松生 鈴木日出年 大河原昌勝 天野直松 武内明道 中川誠風 杉山滋寛
		時報	神宮大庭及階頒布式 大庭頒布の徹底に関する通牒 会宮大庭及階頒布に關し本県の通牒 第九回県内神社氏子総代会 愛知国学院校舎増築 熱田神宮本殿遷座祭執行 津島神社仮殿遷座祭執行 丹羽郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 北設楽郡に於ける神前結婚式の普及と結婚改善の座談会 額田郡及岡崎市連合招魂祭状況 深川神社の神樂殿及社務所新築奉告祭 寶飯郡の大庭及階頒布式並氏子総代会 西加茂郡の国民精神論週間奉告祭 南設楽郡の神宮大庭及階頒布式 県外神社視察状況 豊橋市の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 岡崎市の神宮大庭及階頒布式 西加茂郡の神宮大庭及階頒布式 八名郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 豊橋市に於ける国体明徴講演会				
		象報	熱田神宮本殿遷座祭執行 津島神社仮殿遷座祭執行 丹羽郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 北設楽郡に於ける神前結婚式の普及と結婚改善の座談会 額田郡及岡崎市連合招魂祭状況 深川神社の神樂殿及社務所新築奉告祭 寶飯郡の大庭及階頒布式並氏子総代会 西加茂郡の国民精神論週間奉告祭 南設楽郡の神宮大庭及階頒布式 県外神社視察状況 豊橋市の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 岡崎市の神宮大庭及階頒布式 西加茂郡の神宮大庭及階頒布式 八名郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 豊橋市に於ける国体明徴講演会		鳥取県、島根県、千葉県、栃木県		
		雑報	三河神職月道大会の記 岡崎市神職会の給与金規程 官祭招魂社献詠会設立 東社環状神社の基本金造成方法設定				
		文苑	漢詩 和歌 俳句				
		神社昇格	神社昇格				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
366号	昭和11年4月22日			更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神社に就いて 神社中心と農山村の繁榮策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て			梅本寛一 高松定久 井田英次郎 中川誠風 森岡政一 生田小平次 杉山滋寛 丹羽敬治
		論説	更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神社に就いて 神社中心と農山村の繁榮策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て				
		説苑	更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神社に就いて 神社中心と農山村の繁榮策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て				
		講演	更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神社に就いて 神社中心と農山村の繁榮策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て				
		時報	尾張氏の木曾と田原神社 本会代議員会 本会理事会 愛知国学院校舎増築式 社事局長理員懇談会 愛知国学院校舎増築工事竣工奉告祭執行 南設楽郡神職会主催大月会 新城町郷社富永神社の大月会 北設楽郡神職会総会 知多郡の敬神講演会 新年の初会合に参加して 小学生の敬神奉詠 北設楽郡講演一覽 国威宣揚武運長久祈願祭並重慶戦死者慰霊祭 敬神の旅				
		象報	尾張氏の木曾と田原神社 本会代議員会 本会理事会 愛知国学院校舎増築式 社事局長理員懇談会 愛知国学院校舎増築工事竣工奉告祭執行 南設楽郡神職会主催大月会 新城町郷社富永神社の大月会 北設楽郡神職会総会 知多郡の敬神講演会 新年の初会合に参加して 小学生の敬神奉詠 北設楽郡講演一覽 国威宣揚武運長久祈願祭並重慶戦死者慰霊祭 敬神の旅			鳳山生 鳳山生 齋藤幾三郎	
		雑報	尾張氏の木曾と田原神社 本会代議員会 本会理事会 愛知国学院校舎増築式 社事局長理員懇談会 愛知国学院校舎増築工事竣工奉告祭執行 南設楽郡神職会主催大月会 新城町郷社富永神社の大月会 北設楽郡神職会総会 知多郡の敬神講演会 新年の初会合に参加して 小学生の敬神奉詠 北設楽郡講演一覽 国威宣揚武運長久祈願祭並重慶戦死者慰霊祭 敬神の旅			村松治三郎 村松治三郎 太田新之助	
		文苑	漢詩 和歌 俳句				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
367号	昭和11年7月15日						

	桑原全本会長を送る			
論説	我国上代の伝説及年紀に就いて			澤邊松生
特殊神事	集崎神前神社の潮干祭			成田昇三
	祭政一元の目覚			今泉鳳山
説苑	敬神と教育			定塚天祐
	講話術に就いて			武内静清
時報	神験に就いて			杉山道貞
	第八回愛知県神職会総会			
	東海中部五県連合神職大会			
	全国神職会評議員会			
	第二回全国神職大会			
業報	漸内相の訓示と指示			
	物故神職会祀祭及重祭執行			
	知多郡八幡町の時局講演会			
	知多郡の氏子総代会			
	尾張八幡神社少年会葬会式			
	帝都の神社巡拝記			辻下春水
	本会役員異動			
雑報	新嘗祭献斎田島の掃掃祭及び御田掃祭			
	三宅友信公御即位神前奉告祭			
	北設楽郡の敬神奉祭			佐藤珍水
	県内小学校に於ける神棚及神祠奉置の状況			
	神棚又ハ神祠ノ設備ヲ有スル小學校数語			
	愛知県に於ける神社功勞者表彰			
	全国神職会に於ける神社功勞者表彰			
文苑	桑原翁漢別会			
	漢詩			
神社昇格	和歌			
	俳句			
神社昇格	神社昇格			
任免辞令	任免辞令			